

子どもたちに対する大人の責任

～父の日に考えてみよう～



認定 NPO 法人おやじ日本設立 20 周年記念全国大会

SPECIAL THANKS

事業助成
一般財団法人保安通信協会

ご賛助

当会の活動にご賛助賜り深く感謝申し上げます。お名前の公表をご希望されておられない方々につきましても本紙面をお借りして心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社寿商会 杉並交通株式会社 株式会社 LOSA 弁護士尾崎毅
木藤繁夫 公益社団法人スコレ家庭教育振興協会 弁護士山下哲夫
弁護士中務嗣治郎 一般社団法人日本映像制作・販売倫理機構
弁護士深澤直之 保険情報サービス株式会社 株式会社ホットマン
認定 NPO 法人日本を美しくする会 株式会社読売新聞東京本社
株式会社幸栄企画 虎門中央法律事務所今井和男 平野博文
杉並区立小学校 PTA 野球連合協議会 東京少年補導員連絡協議会
(順不同 敬称略)

共催 株式会社読売新聞東京本社 全国読売防犯協力会

公益社団法人スコレ家庭教育振興協会

特別協力 大庭泰三

基 調 講 演

「未来に通じる教育へ」

工藤勇一氏 横浜創英中学・高等学校前校長
公立中学校長在任中(6年間)に服装頭髪指導をしない、定期テストは廃止、固定担任制もなくすなど、「学校の当たり前」を見直した教育改革で注目を集めた。定年退職後は中高一貫校の横浜創英中学・高等学校で2024年3月まで初代校長を務める。現在は教育アドバイザーとして活躍中。

著書『学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる! 公立名門中学校長の改革』(時事通信社)、『麹町中学校の型破り校長 非常識な教え』(SBクリエイティブ) 著書多数。

本誌記載の内容は全て無断転載を禁じます。

私は、公立の中学校を4年前に定年退職後、私立の中高一貫校の横浜創英中学・高等学校の初代の校長をしていました。この3月に退職し、今はフリーでいろいろな学校のアドバイザー、皆様がよく知っているところではサッカーの元日本代表監督の岡田監督の学校のアドバイザーなどもやっています。

ちなみに私は男の子2人の父親ですが、上は37歳、下も34歳、そして5歳と3歳の女の子のおじいちゃんです。そういう立場でお話いたします。

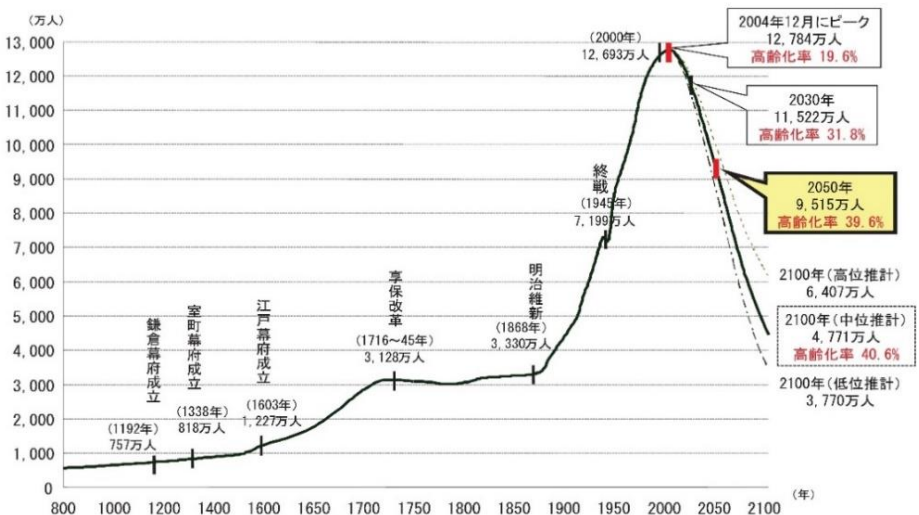
日本の学校教育で話題になっている問題の一つ目は不登校です。不登校が30万人も増えました。世界に不登校が教育問題になっている国はないということを知っていましたか。欧米には不登校という概念がありません。極端に言うと不登校はないかもしれません。日本特有の問題です。アジア型と言われていて、実は韓国も似たような問題がありますが、今日は日本に特別に注目したいと思います。

二つ目はいじめ問題です。世界では日本のようないじめ問題の取り上げ方は一切されません。学校の中で子ども同士がトラブルことは日常的に起こることです。その中にいじめの構図があることも時々あるわけですが、マスコミなどで学校の対応の仕方が悪い、隠蔽しているのではないかという取り上げられ方をされます。でも欧米には一切ありません。学校の中でトラブルが起こって、学校が間に入ったら欧米では基本的に感謝されるのに、日本では学校が叩かれる。これも日本独特の教育問題です。

三つ目に教員の過重労働問題もあります。OECD加盟国38カ国で悪化している国は日本しかありません。だから日本独特の問題です。

実は私たちは勘違いしている。教育の本当の目標を忘れた国、そのことによって起きている問題が、不登校問題、いじめの問題、教員の働き方改革の問題です。わかりやすく言うと、教育の最大の目標は世の中に出たときに自分の足で自分の力で歩いていくことができる子どもに育てることです。もう一つは社会で生きていくことはいろいろな人と一緒に、多様な中で生きていく。当然いいことばかりではなくて苦しみます。対立が起きるし、考え方が違う。それを解決するのは自分自身だという当事者意識を持っているか。これを育てるのが教育です。日本は残念ながらこの二つを奪い取る教育をずっとしている。特にこの30年はひどいことになってきています。

まず日本がこのことにちゃんと注目しなければいけなくなってきた大きな理由があります。ある意味ではチャンスがやってきたと言ったらいいのでしょうか。日本は今までこの問題に気がつかなかった。それはなぜか。グラフ(★1)を見ていただくとわかるのですが、日本は明治維新のとき人口は約3300万人でした。それから130年間、ひたすら人口が増え、頂点が2004年、平成16年です。その間に1億人増えた国です。これはどういうことなのか。簡単に言うと経済が発展する。教育の力も確かにありますが、何より人口が増えるとモノは作っても作っても売れるので経済は豊かになる。いまのインド、ベトナムもそうです。



★1 出典：国土政策部会「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要
(平成23年2月21日国土審議会政策部会長期展望委員会)

たとえば今から34年ぐらい前、平成元年頃の日本は、経済が世界で絶好調で、Japan as Number Oneと言われた時代です。アメリカをもしのぐような勢いがあった。それから34年経って、最近34年前の株価ようやく戻りましたが、アメリカの株価はその間、14倍です。世界はどんどんどんどん変化しているのに日本はこの間、どうにも経済が回らなくなった。その大きな原因は、実はこの人口

の減少にある。

緑で色付けされた時代は毎年 70 万人増えましたが、今は毎年 80 万人減っています。少子化で子どもはどんどん減っている。モノは作っても売れない。高齢者が増えているので経済は回らない。この状態の社会は止まらない。我々が今預かっている子どもたちはこの時代を確実に生きていく覚悟しなければいけないのです。

政治も経済も教育も、構造改革をしなければいけない。でも構造改革をするためには、とんでもなく痛みが生じる。この痛みを皆が受け止めて覚悟しなくてはいけないのですが、今の日本の社会は当事者性を失っているので、人の文句しか言わない。これからの時代は今までのビジネスモデルは通用しないし、教育モデルも通用しません。おそらく一つの会社に就職して定年まで勤めるという緑の時代はもうやってきません。子どもたちは自分の力で起業したり、転職したり、副業を兼業したり、特別な技術を身に付けてそれをきちんと高く売っていくみたいなことが必要な時代です。あの緑の我々を教育が成功していたと勘違いしたということです。

学歴社会になっていった。これもアジア型で日本、韓国、中国ぐらいしかありません。世界はペーパーで人を判断するという受験方法を取っていません。オランダは受験をやってはいけないと国で決められています。一方日本は明治時代から続く教育スタイルをずっと維持したまま、それどころかこの 30 年間、ますます激しくなった。ますます激しくなった理由は、やはり人口減少にあります。人口減少は民間教育産業もどんどん淘汰されて、いま大手の受験産業でさえどんどん合併されています。1 人当たりの教育費が上がらないとやっていられないという時代に入っている。でもこれももう限界に来ているということです。

我々が一番意識をしなければいけないのは、子どもの人生に親が簡単に助言できる時代ではない。あの緑の時代は、一つの会社に入ってしまうと定年退職まで連れて行ってくれた時代です。それは人口が増えるのですから会社が基本的につぶれない時代です。その時

代と今はまったく違う。今は子どもがいい会社に入ったと思っても10年後はわからない。だから責任が取れない。子どもが常に自分自身の力で決定をするという訓練をしなくてはならないのですが、あの緑の時代はその訓練を忘れた。この30年ますますひどくなっている。

これは3年前にもこの会が出した表(★2)ですが、これは4年前に行われた世界の18歳の若者を対象にした意識調査の結果です。どれを見てもわかりますが、日本の若者がめっちゃめっちゃ幼い。日本、インド、インドネシア、韓国、ベトナム、中国のアジアと、イギリス、アメリカ、ドイツですが、韓国と日本は課題がすごく似ている。教育がそっくりだからです。日本の子どもたちは「自分を大人だと思う」が21.9%、「責任ある社会の一員だと思う」44.8%、「将来の夢を持っている」60.1%、「自分で国や社会を変えられると思う」18.3%で5人に1人もいない。最後の二つは「自分の国に課題はあるか」、「議論しているか」、とにかくこれから見える姿は幼くて、他人事です。国の文句を言い、管理職の文句を言い、そんな世の中です。これは若者の姿ではなく、もうすでに我々大人の姿と言ってもいいかもしれません。

若者の「国や社会に対する意識」

	自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本	21.9%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

★2 出典：日本財団「18歳意識調査」から 2019.11

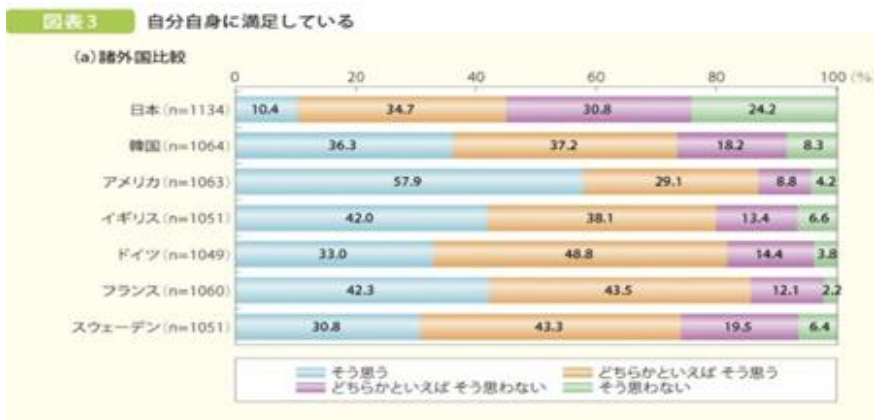
その後も日本財団は調査をしていて、一番新しい調査が次の表（★3）です。2024年4月、2カ月前に出たものですが、この調査を見ると数字は上がっていますが、相変わらず世界最低です。さらに自己肯定感はとても低いことは昔から有名です。（★4）幸福度もとても低い。身体的な健康は世界第1位なのに精神的幸福度は38カ国中37位です。（★5）日本の教育が一番大事なものを失ったということです。

若者の「国や社会に対する意識」

	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
国や社会に役立つことをしたいと思う	64.3	78.4	77.7	93.6	71.1	85.9
自分は責任がある社会の一員だと思う	61.1	79.4	80.7	92.1	74.5	86.8
ボランティア活動に参加したい	60.4	76.3	68.6	89.8	70.5	79.2
慈善活動のために寄付をしたい	58.4	78.4	79.5	87.2	66.6	84.4
自分は大人だと思う	49.6	76.6	75.8	90.0	54.8	81.7
自分の行動で、国や社会を変えられると思う	45.8	65.6	56.1	83.7	60.8	80.6

(単位:%)

★3 出典：日本財団「18歳意識調査」から 2024.4



★4 出典：内閣府 2019年版「子ども・若者白書」から



★5 ユニセフ「レポートカード16」から 2020.9

何かというと、子どもに最も必要な自分で物事を考える主体性と社会の中でトラブルが起きたときに自分で解決しようとする当事者性です。世界の教育目標が明確になっている国はこの二つをうたっています。子どもが自分の力で歩いていくため、何ができるかを教えるのが学校である。社会の中でトラブルになったときに民主主義的に解決する力を教えなさい。これが学校の目標ですが、日本はそうではない。とにかく手をかけまくる。この30年ほど手をかけるようになりました。

文部科学省を先頭に教育改革をしようと言われ始めてからますますひどくなった。子どもたちにもっといい環境を与えようと一生懸命頑張った結果、悪くなった。つまり主体性と当事者性を育てないで力をつけてもだめなのです。手をかけて、あれをしる、これをするなど言われて育った子どもたちはうまくいかないことがあると必ず他人のせいにします。勉強がわからないと先生の教え方が悪い、クラスがうまくいかないと担任が外れだと言います。母親が良

かれと思って朝起こしに行くと「うるさいよ」と言います。「じゃあ勝手にして」と言って遅刻すると、「何で起こしてくれなかったの」と言います。つまりこれも日本独特の教育だと思います。

何でそうなったのか。いつの間にか「知・徳・体」が目標になった国だからです。それよりもっと上の大事な目標を忘れた。それは生きる力、「主体性と当事者性」です。主体性・当事者性を失って知・徳・体を身につけてもろくなことがない。なぜ発展途上国の子どもがちゃんと学校に行くかという、飢えているからです。勉強は飢えていないといけない。日本の子どもたちは飢えていない。飽食です。食べ過ぎている子どもに無理やり口を開けさせてどんどん突っ込む教育をこの30年間ひたすらやってきた。うまくいかないとな人のせいにする若者たちを育てているのです。日本の大人の姿は労働生産性が低くて有名です。(★6)



★6 出典: (公財) 日本生産性本部「労働生産性の国際比較 2021」

これはまさに子どもたちの姿そのものです。これも日本・韓国・中国で独特です。日本・韓国・中国の子どもたちの勉強時間はめちゃくちゃ多い。ヨーロッパではもともと塾に通う習慣がないし、そもそも塾がありません。宿題も出ません。デンマークでは1週間に7分しか宿題を出してはいけないから、つまり出さないということです。ヨーロッパでは学校で残った課題しかやらない。日本はとにかく勉強させることに熱心になってますます効率が悪い。

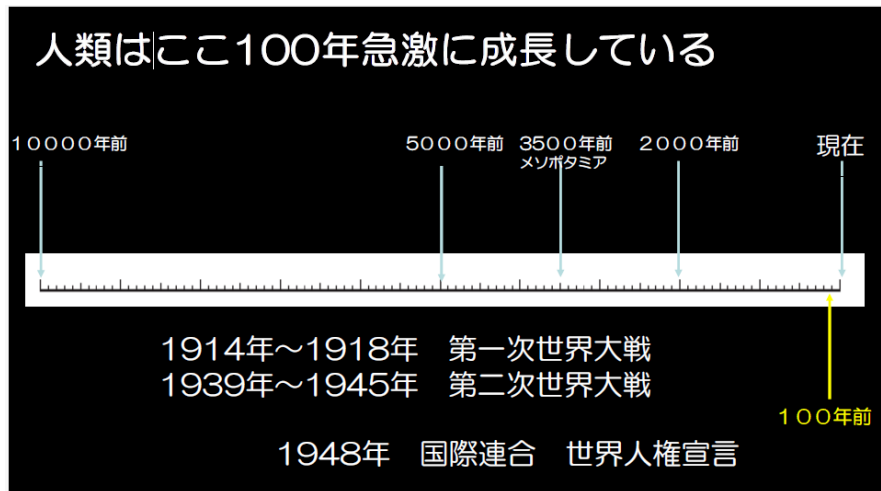
当事者性については幼児教育から始まっています。日本の母親がとても心配するのは、自分の子どもが不特定多数の子どもたちと遊べるだろうかということです。子どもを公園に連れて行った。女の子が一人で遊んでいて、そこで「うちの子を遊ばせてもらってもいいですか」と声をかけると女の子の母親が「どうぞ」と言って男の子と一緒に遊び始めます。そしてトラブルになると必ず親が出ていきます。これも日本独特です。

ブランコに乗るときは何回までね、順番を守ろうねと全部大人がルールを決めます。トラブルがあると介入して、君が悪かったら謝ろうねと言う。謝られたほうはいいよ、ごめんねと儀式みたいなことをやる。これも日本独特です。介入すれば介入するほど、子どもたちはトラブルが起こったら大人が解決すると思ってしまう。でも欧米では基本放ったらかしにする。けんかをして翌日遊ぼうと言うといやだ、貸してと言うと、いやだ、返してくれないからと主張する。その繰り返しの中で体験的に折り合いをつけるということがどういうことか、経験をしていくわけですが、日本はそれを全部奪ってしまっている。仲がいい環境がいいと勘違いしている。それはなぜかと言うと、子どもが将来独り歩きをしますか、将来トラブったときに子ども同士で解決するようにしたいですかと一番上の目標を合意していない国だからです。だから子育てにおいて一番大事なことは、人の力を上手に借りながら自分の力で歩いていくことができるよう支援することが子育てな

のです。ですからどう手をかけるかではなくて、どう手を離すか。手を離すために手をかけるのが教育、子育てですが、それを忘れた。

思い出してほしいのですが、生まれた時に主体的でない子どもは一人もいません。一人でズボンを履こうとするとおしめに引っかかってうまく上がらない。必死になって履こうとしているときに、いつの間にか親が全部手伝ってしまうと子どもの主体性を奪ってしまうこととなります。デンマークの保育士さんはこの瞬間をとっても大事にしている、おしめが引っかかっていると後ろに回ってスッと引っ張ってあげる。なぜかと言うとこの瞬間が子どもにとって人生の大事な瞬間であることを知っているからです。生まれたときの主体性を奪わない、多様性の中で当事者意識を育てることが教育の一番の目標です。

この表(★7)を見ていただきたいのですが、1万年の物差しです。



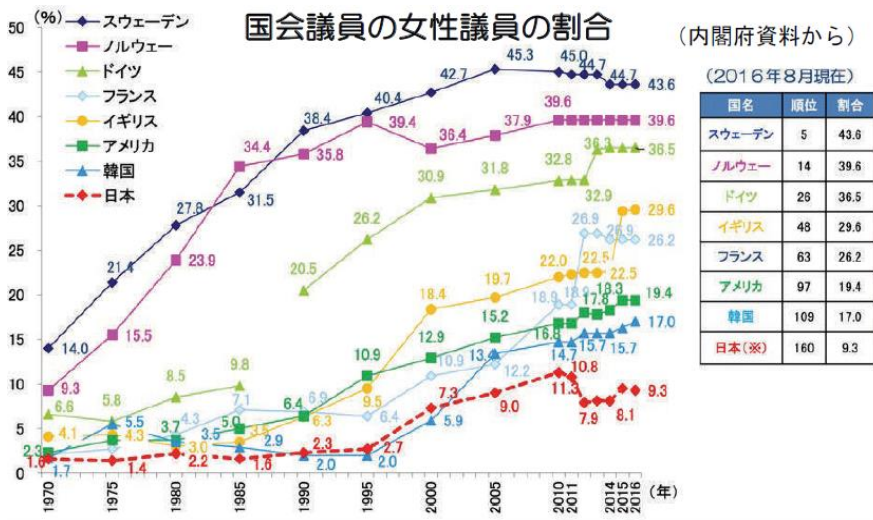
★7

人類のDNAを調べると20万年前、アフリカのボツワナにわれわれの起源がある。黒人も白人も何もない。そこから世界中に散り散

りになっていった。人類がとても人間らしくなったのは最近です。3500年前にメソポタミア文明ができ、ようやく社会が意識されて、だんだん平和を求めていく。戦争もしながら、何回も失敗しながら第二次世界大戦を終えたのち、ここから教育が大きく転換されます。イギリスでさえ、女性に参政権ができたのは100年前です。世界で最初に女性に選挙権を与えたのはニュージーランドですが、このわずか100年で人類はめっちゃくちゃ進歩した。日本がなかなか進歩できなかった理由、みんなに優しい社会がくれなかった理由は、あの緑の人口が増えて経済が豊かになった時に、そこに目が向かなかったからなのです。

これで話を終わりにしたいと思いますが、このグラフ(★8)は国会議員の女性議員の割合です。1970年、今から50年前までさかのぼると、今ジェンダーの意識がとても高いと言われるスウェーデン・ノルウェーでもまだ10%程度です。さらにその25年前、第二次世界大戦の頃は世界中女性差別でした。わずかこの50年の間にどんどんその感覚が進んでいった。日本はまだまだこれからですが、今ようやく人口にもストップがきて危機状態を迎えて何とかしなければいけない、一人ひとりが当事者にならなければいけない。だから当事者になる教育をすることによって、皆が幸せな社会をつくっていきける。そんなことでしょうか。

私はおやじの会に竹花さんから声をかけられて、おやじの会というのもどうなのでしょうがぐらいのことをお話ししました。私なんかは全部妻に任せていたような時代ですが、今うちの息子などは働く前に娘の幼稚園のお弁当もつくりまますし、おしめも換えるし、洗濯もします。さっきのグラフではありませんが、おやじがちゃんと一員になれということなのかなとったりしてはいますが、というところで話を終わりたいと思います。



★ 8 出典：内閣府資料 2016

パネルディスカッション

「子どもたちにできること、しなければならないこと」

コーディネーター

竹花 豊 おやじ日本理事長 元東京都副知事

広島県警本部長時代には暴走族問題に取り組み、大きな成果を上げる。東京都副知事に就任後は、「歌舞伎町浄化作戦」の総指揮、都の青少年健全育成条例の改正などを行ない、一貫して青少年の非行防止、健全育成に関わっている。現在、地域において学校と連携しながら子どもを育てるおやじの会を支援する「認定特定非営利活動法人おやじ日本」の理事長等を務める。著書『子どもたちを救おう』（幻冬舎）

パネリスト

工藤勇一氏 横浜創英中学・高等学校前校長
（プロフィール p 2 掲載）

山崎修道氏 東京都医学総合研究所 副参事研究員

1978年福岡生まれ。大学院在籍中より、大学病院にて精神疾患を持つ当事者の方の就労・就学支援の実践に携わりつつ、精神疾患発症に関わる心理社会的要因の実証的な研究に従事。2012年より大規模追跡調査「東京ティーンコホート」の立ち上げに関わり、現在まで継続。科学的根拠に基づくメンタルヘルス問題の可視化（見える化）と新たな支援モデルの検証・社会実装を進めている。

パッケンマッケン タレント

1997年に共通の知人の紹介で知り合い、パッケンマッケンを結成。日米お笑いコンビのパイオニア。結成26年。

「爆笑オンエアバトル」で頭角を現し、「ジャスト」でお茶の間に浸透。現在は情報番組や英語にまつわる教育バラエティをはじめ、テレビやラジオ、イベントで活躍。

2003年にはラスベガスで、2007年にはハリウッドで英語漫才を挑戦。成功をおさめた。講演実績は16年以上。

山田正也 上尾市原市おやじの会会長

群馬県生まれ、埼玉県上尾市で40数年暮らし、72歳となった現在も熟成中。

その間、保育所～学童保育所～PTA等を通じてボランティア活動に関わり、現在は、市・地域・学校関係を軸に活動を継続中です。

中でも「おやじの会」発足に関わり20年余りが経過、時代は変われど地域の宝である子どもたちの健全育成に向けたお手伝いは不可欠であり、今後とも地域・学校との連携を深め「誠心誠意」努めていきます。

村内敦 オール世田谷おやじの会会長

世田谷区社会教育委員、世田谷区新BOP運営委員、世田谷区桜小学校遊び場開放運営委員長、世田谷区松丘町内会役員、日本防災士機構防災士。

子どもたちと地域の未来のために、震災等一大事にはおやじの会等地域のコミュニティーが地域を救うという信念の基、地域コミュニティー活性化に邁進している。

石橋昌祐 杉並区立小学校PTA野球連合協議会会長

核家族化が進み、親が我が子にかける期待・手間が以前より、非常に大きなものとなっています。親は獅子となり、獅子は我が子を千尋の谷に落とす、気持ちが必要と考えています。

思春期とメンタルヘルス

竹花 工藤先生、ありがとうございます。またあとでいろいろお伺いしたいと思います。

続いて山崎先生のお話を伺います。自己紹介を兼ねて、どんなことをなさってきたのか、よろしくお願ひいたします。

山崎 私は世田谷区にある東京都医学総合研究所で研究員をやっています。私自身は臨床心理士とソーシャルワーカーとして、メンタルヘルスに不調を抱えた若い方を支援してきた経験があります。その中で思春期が非常に重要な時期であり、一生で一番大事な時期である思春期のメンタルヘルスと幸福感について、実際の科学的データから研究を進めています。今日はおやじ日本の会にお招きいただいたということで、子どもたちの幸福感に父親が大きな役割を果たすということが科学的にもわかってきましたので、そのことを簡単にお話ししたいと思います。

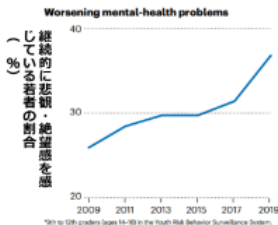
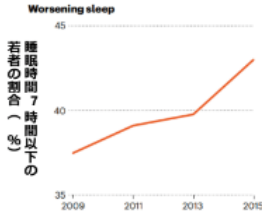
思春期とメンタルヘルスは切っても切り離せない問題で、それはなぜかと言いますと思春期は体も心もその子の周りの環境も激変する一生の中でも特別な時期です。このころになると体が非常に変わってきて、脳や行動、心のあり方も劇的に変わります。なので心も不安定になりやすくなります。その証拠にうつ病や統合失調症、不安障害といった精神疾患はこの思春期にほぼ8割ぐらいが発症すると言われていています。しかも最近の15年間では思春期のうつ病と自殺関連問題の数は地球規模で見ても非常に増え続けていることが医学の分野でも大問題になっています。

その原因は何か。やはり激変する現代社会の中でスマートフォンなど電子デバイス、インターネットの普及が若者のメンタルヘルスに対して悪い影響を与えているのではないかと、ということがわかってきました。アメリカの大規模なデータ(★9)では2009年～2015年に睡眠時間が短い若者がすくぞく増えました。それと併せて将来に対して悲観したり絶望感を感じている若者の数もすくぞく増えています。この時期はまさにスマホが若者に普及していった時期とぴったり一致します。そういうわけで私たち研究者はスマホなど電子デバイスの普及が若者のメンタルヘルスに非常に悪い影響を与えているのではないかと最近非常に注目が集まっています。

激動の思春期とメンタルヘルス 世界の動き

PAYING FOR LATE NIGHTS?

More US high-school students* have reported getting less sleep in recent years. A greater proportion are also experiencing feelings of sadness or hopelessness.



*9th to 12th graders (ages 14-18) in the Youth Risk Behavior Surveillance System.

- 米国では、2009年～2015年の間に、睡眠時間が短い若者が増えた(上段:オレンジ色)。
- 同時に、メンタルヘルスが悪い若者も同期して増えた(下段:青色)。
- **十分な睡眠**は、思春期の健康な生活の基盤
- スマホ・タブレット等の**電子デバイスの利用時間が伸びた**ことで、睡眠時間が減少し、メンタルヘルスが悪化。

Fulginiti 2022 *Nature*

2

★ 9

父親との関係

そういった激動の時代だからこそお父さんの役割は非常に重要であると思います。実は私自身、中1の娘、小6と小3の息子、3人の子どもの父親です。学校でもいまタブレットが全員に配られています、実はそのタブレットも結構悪い影響を与えることもわかってきていますので、親としてはどういうふうにしていけばいいか日々悪戦苦闘しながらやっている状況です。

科学的なデータからもお父さんとのよい関係が思春期の子どもを支える大切な要因であることがわかってきました。結果を先に言いますが、では父親とのよい関係は、何が一番大事か。それはお父さんである夫が、お母さんである妻に対して家事や育児の面で具体的に支えて、妻からの信頼を夫が得ていることが父親と子どもの関係をよくするということが、データからもわかってきています。これは非常に耳の痛いデータで、私自身、うまくできているとは言えないと思っています。

思春期の父親との関係がとても大切なことは、日本だけではなく

てイギリスでもわかっています。1946年、戦後すぐにイギリスで生まれた5000人を70年間追跡して、今も続いている調査があります。このデータを分析すると1946年に生まれた人が思春期になった時に、父親との関係が非常に良かった人は、60歳になった時の幸福度も高いということがわかっています。やはり思春期の父親との関係が一生ものの財産になるということがデータでもしっかり示されています。

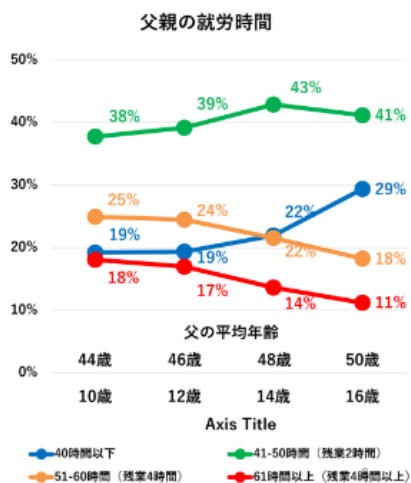
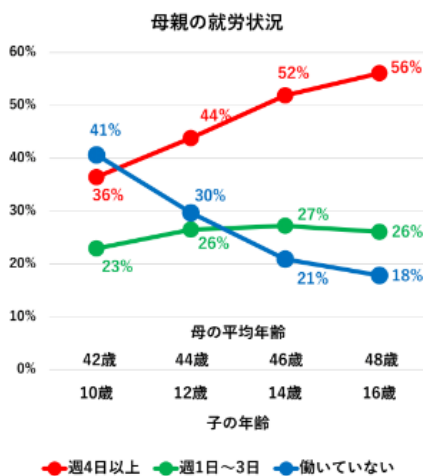
こういうかたちで人生の中で思春期はすごく大事だということをおわれわれも痛感していますが、ただ思春期に何が起きているのかはデータとしてはまだ非常に不足していますので、10年ほど前にわれわれ研究チームは都内の三つの自治体にお住いの3000人の追跡調査、「Tokyo Teen Cohort Study」を立ち上げました。いろいろな方に応援いただいて、対象者がちょうど10歳のころからスタートして、今は20歳になりましたが、思春期の間ずっと調査に協力してくれています。この図のようなかたちで最初4回調査を行い、今5回目ですが、8割ぐらいの方が最初からずっと協力してくださっていて、なかなか世界にもないデータなので非常に貴重になっています。

ライフスタイルの変化と子どもの幸福感

今日はこのデータを基にお話しします。ティーンコホート調査では、子どもたちが10歳の時父親の平均年齢が44歳、母親は42歳、だいたい2人兄弟が半分以上で3人以上は4分の1の少数派です。2002年～2004年に生まれた子どもたちですが、その間に両親のライフスタイルも非常に変わってきています。

母親の就労状況(★10)ですが、青いラインは専業主婦の割合です。専業主婦は子どもが大きくなるとどんどん働きに出ます。赤いラインは週4日以上働いている母親ですが、半分以上になってきます。父親の就労時間はどうか。実は子どもの成長に合わせて短くなっていく傾向があります。青いラインは定時に帰る父親です。オレンジと赤が長時間労働でどんどん減っている。これはもしかすると時代が進んで働き方改革などもあって就労時間が減ってきたり、またちょうどコロナ禍でテレワークの影響などもあって、父親・母親の働き方もすごく多様化している状況です。

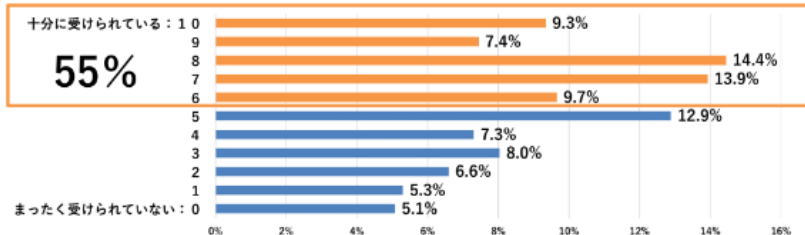
両親の就労状況



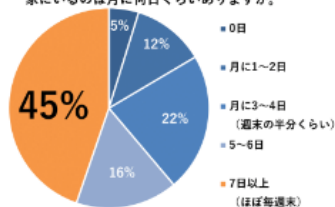
★10

父親の家事・育児参加: 母親(妻)と子どもからの評価

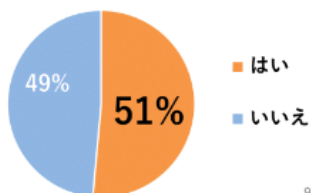
家事や育児の面で、パートナー(夫)からサポートを受けられていますか？



あなたのパートナーが週末(土、日)や祝日に家にいるのは月に何日くらいありますか。



お父さんは、宿題を手伝ってくれますか？

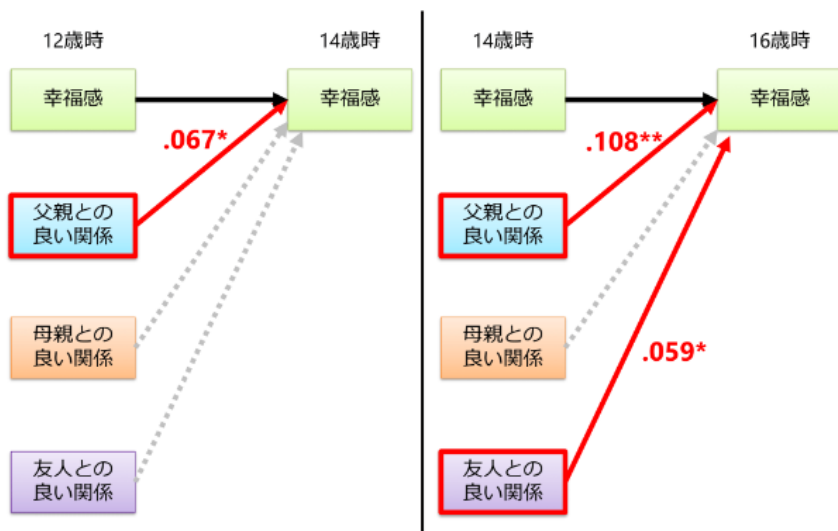


★11

こういった状況で父親の家事・育児参加状況はどうか。(★11) 上の棒グラフは母親から見て父親が家事・育児のサポートをしているかという採点表です。10段階評価で6点以上のオレンジの部分が合格点とすると、半分以上の父親は母親から合格点ももらっている状況を示しています。

下の円グラフは、左が土日にほぼ家にいる父親は45%、右が子どもの宿題を手伝っている父親が51%です。全体で見るとほぼ半数の父親が休みの日は家にいて家事・育児にかかわっている様子が見て取れます。これは約10年前の数字なので、今はもっと高い可能性もあるのではないかと思います。

このように家庭の状況も平成から令和にかけてかなり変わってきていますが、そういった変化の中でもデータを分析するとやはり父親との関係は大切だということが改めてわかりました。



※良い関係：一緒に楽しく過ごす、褒めて認める、応援しサポートする

10

★12

この図(★12)は子どもの幸福感は何が高めているのかを分析したものです。左の図は12歳の時の父親との良い関係が2年後、14歳の時の幸福感を高めています。右の図は、14歳の時の父親との良

い関係は 16 歳の時の幸福感を高めていることを示しています。ここで言う良い関係とは、一緒に楽しく過ごす、ほめて認めてくれる、応援してサポートしてくれるという関係で、こういった父親との関係が思春期を乗り切るうえですごく大事になってきます。

興味深いのは、母親との良い関係は思春期になるとあまり関係なくなり父親との関係が重要だということです。母親との関係は、思春期に入る前はおそらく安全基地として大事だけれども、これから自分の頭で考えて外に出ていくとなった時に、やはりモデルとなる父親との関係がすごく大事になってくるのではないかと思います。これは男子と女子では、女子のほうが父親との関係が重要という結果でした。

父親と子どもの良い関係は何が支えているのか。どうしても世帯の経済状況が関係してくるのですが、仮に経済状況が同じぐらいだったら、たとえば母親から見て、子育てに父親がいざという時に力になってくれる、家事や育児の面でサポートを受けられている、妻が夫のことを信頼している、いわゆる信頼関係が非常に大事になってきます。こういう信頼関係があると父親と子どもの関係が良くなるということです。

ではその信頼関係を何が支えているかということ、父親と母親が養育についてちゃんと話し合う機会を持っている、しつけの方針が両親で一致している、父親が一貫して姿勢でほめたり叱ったりしているということがとても大事だということがわかってきています。これは私の意見ではなくてデータがこのように示しています。

これはごくごく当たり前の結果だと思いますが、改めてこのような大規模なデータから見える化されたことは意義があるのではないかと思います。私自身も思春期の娘と息子を持つ父親ですが、このとおりにはなかなかうまく行かないところですが、この結果を思い出して何とか踏みとどまっているような感じで毎日過ごしています。

子どもたちをめぐる状況

竹花 山崎先生、どうもありがとうございました。パッキンもマッキン、今のお二人のお話を伺って、日本の子どもたちをめぐる状況はここ十数年の間に大きく変わっているのでしょうか、それとも本

質的にはあまり変わらないという感じでしょうか。

パックン 日本に来て31年、子どもが生まれて17年、パパ歴17年ですが、僕が日本に来た頃英会話講師をしていましたが、「〇〇わかる人」と言うと小さい子はすぐ「はい、はい」と言っていたのに、中学生、高校生になると「うん、わかんない。わかるわけないよ」みたいな、その年齢との反比例関係が目に見え込みました。その後、ゆとり教育があったり、ダンスを取り入れたり、子どものクリエイティビティ、コミュニケーション能力を高めようという社会的な運動が起きたのは間違いありません。

でも今の高校生に「〇〇やってくれる人」、「〇〇やってみたい人」と言って、「はい、はい」と9割が手を挙げる教室は見たことがない。今僕は東工大で教えていますが、東工大の学生は超一流で偏差値はとても高いのですが、それでも積極的に手を挙げる人はいない。この日米の違いはなかなか直らないなというのはずっと実感しているところです。残念だと思います。

日本の教育はまずほめるべきです。倫理観はすばらしい。お行儀がすばらしい。勉強する習慣が身につけてしっかり知識も身につけている。どこの店に入っても計算がちゃんとできてお釣りを間違えられることはほぼない。漢字が読めない人はほとんどいない。ですから教育レベルはとても高い。でもやりたいとか前向きに参加したいという気持ちを植え付けられていない。それが育っていないのは30年前からの課題で、まだ解決できていないと僕は実感しています。

竹花 マックン、日本の父親は変わってきていますか。

マックン 日本の父親はたぶん変わってきているし、工藤先生のお話を伺って学校もすごく変わってきているなと思うのは、昔は学校でも生徒と先生が争う部分もあったと思うんです。学校が崩壊したりクラスが崩壊したり、でもそこはそこでその時代のコミュニケーションの取り方であって、それが良かったのか、悪かったのかは置いておいて、今は学校が親から見るとものすごく穏やか過ぎると感じます。

皆が皆、個性がなくて、先生や親の言うことを納得して育ってしまっているから、学校でも争いは起きないし、トラブルも起きないし、よく言えば本当に平和な学校生活をみんなが送っている。でも悪く言うと、何か平凡な個性がまったくないような子どもたちに育っていることを親の立場からすると実感します。親が変わっている

かと言うと、我々も実際にそういう立ち居振る舞いをしなければいけないのかなと流されてしまっていると思います。

竹花 山田さん、いまの山崎先生の話で父親の半分ぐらいがいろいろな家事の手伝いをしている、子どもの宿題も見ているということでした。僕らの世代はそんなことはちょっと考えられなかったのですが、山田さんは子どもに宿題を教えていましたか。

山田 まさに世代が相当違う年齢の私ですが、当時のことを振り返ってお話しさせていただきます。

パッケン ちなみにおいくつですか。

山田 72歳ですが、この会場を見ても最高齢かなという気がしています。私は埼玉県上尾市でおやじの会に20年ちょっと前から携わっています。お話にも出ていましたが、当時は学校が大荒れの時代でした。上尾市の学校でもご多分に漏れず非常に荒れていました。そういった中で父親、母親が危機感を持って何とかしなくてはと緊急の保護者会などを開きました。昼間保護者会を開くと子どもたちが押し寄せて危ないということで、夜嚴重なパトロールをしながら保護者会を開いた記憶があります。しかしそういったことをきっかけに、そこで手を挙げてくれた人が12~3人いて、即おやじの会を結成しました。

それはおやじたちが学校への関心やかかわりを深めていく一つの大きなきっかけになったのではないかと考えています。その中で具体的な活動として始めたのが生徒たちとの交流です。いろいろな部活動との交流試合、荒らされて傷んだ校内の修繕活動、あるいは生徒たちとのディスカッションなど幅広くやりながら行動してきたのが当時のおやじの会でした。

それから20年ですが、今振り返って思うと、確かにその当時荒れていた子どもたちはいま立派な保護者の世代になって立ち位置も変わってきています。学校の荒れも収まって今は一見非常に穏やかな日常であり学校生活ですが、その中には不登校の増加という大きな問題を抱えています。でも見たところは穏やかな学校生活で、当時の夜間徘徊、器物損壊、暴走行為はなく、夜間地域巡回をしても子どもの姿を目にすることはまったくなくなっています。ただ、見かけないのがいいのかどうか、逆に言うと今の時代はネット社会で、どこかに潜り込んで、違ったかたちの悪さのほうにのめりこんでいるのではないかと危惧しています。

今家庭では自分の子どもが最優先という時代になってきているのではないかと。余計なことにはまったくかかわりたくない。ただ自分の子どもに何か起きれば即クレームを言う。それも学校に言うのではなくて、まさにネット社会、教育委員会や行政に直接匿名でクレームを上げる。これに対応するのに非常に四苦八苦しているという状況です。

PTA にも入らないとか、入ってもお金を払って手伝いは一切しない。小学校の例では入会しない家庭が5%ぐらい、あとは入会しても金で済ませようというのが30%ぐらいあるということで、ちなみにそのお金は年間2万円ぐらいだそうです。2万円払って学校への協力、PTAへの参加を拒否するという人たちが増えつつある。

パックン それは参加すれば2万円は払わなくて済むわけですか。

山田 そうです。2万円を払う代わりに自分のことに専念する。

パックン 参加費ではなくて、非参加費を2万円払うんだ。

山田 まさに非参加費が2万円です。それが30%もいると相当な金額になるので財政的にはいいかもしれませんが、はたしてそういった何事も金で解決していこうという風潮が高まるのがいいのかどうか、我々の世代としては非常に気になるところです。

ただ、こういった社会全体が変わりつつある中であっては親や学校だけに任せていいのか。やはり子どもたちの健全育成に向けて、環境づくり、あるいはきっかけづくりに地域としてかかわりを深めていく必要があるのではないかと最近強く感じているところです。

社会の変化の中で

竹花 今の山田さんなどのご発言からわかるように基本的にスマホなどの伝達手段によっていろいろな情報が得られる。そういう大きな社会の変化がここ10年ほどの話ではないかと思えます。スマホが非常に大きな影響をもたらしている。今の子どもたちはそれが当たり前だと思っているけれど、我々からすると大きく変わってきていて、工藤先生のお話でもこれまで学校で良かれと思ってやってきたことの中に少し問題を抱えていたり、PTAという今まで教育の中に組み込まれていたシステムが少し機能不全の状況に陥っている。そういう社会の変化の中でシステムそのもののありようが問われている状況もある。

そういう状況もありつつ子どもたちは、今だけの問題ではなくて、日本の場合には子どもたちの自律性、自分で主体的に何かを決めていくということについては、工藤先生の学校を除いてはなかなか厳しい状況が続いているのではないかという感じがします。世の中の変化はだれにも想像できない。パクンと言えどもこのスマホ社会の進展はあなたの想像を超えていたと思いますが、どうですか。

パクン マクンや僕の世代はファミコンとかゲーム機がはやったところに育っています。中学生のころ僕以外は皆ゲーム機を持っていて放課後家に帰ってはインベーダーとかやっていた。上の世代からは君たちはゲームしかできなくなって腐ってしまう、何もできないまま育って社会人になったら仕事も子育てもできないだろうと言われましたが、そんなことはない。我々はそこそ立派になりました。

スマホに関しても、もちろん今の子どもも立派に育つ子も多いと思いますが、先ほど先生も紹介したとおり依存症や寝不足になる子どもも多い。また自己イメージ、自分に対する肯定感を失っている子どもも多い。自分が子どもの頃、自分はカッコいいか考えた時に、だれを対象にカッコいいと思ったかということ、たぶん同じ学校の人、同じ町や村にいる人たちで、数年上の先輩をカッコいいなど思っている、自分はそこまで負けていないはずとったり、上から数えて自分が4番目、5番目にカッコいいかなとか、このクラスの中では私を愛してくれる人が絶対いるだろうとか思っていたと思います。

でも今の比較対象は世界一カッコいい人だったりする。Instagramとかの投稿はみんな華やかな生活の写真ばかりです。自分の地味な生活を見て負けていると思って肯定感を失ってしまう。皆いい体している、いい顔をしている、自分だけが地味だと感じてしまう。無理はないと思います。スマホを開くと皆メチャカッコよくて非現実的すぎるのだ。だからスマホを置いて自分のクラスメイト、近所の子と遊ぶような環境づくりが大事です。案外自分はいけているよと自分の子どもに感じてもらいたい。だからスマホなしの日をつくって子どもだけで外で遊ぶ、卓球をやる、木登りをする、皆で工具を使って何かをつくるという時間をつくって、自分も案外いけると子どもが思えるようなことを今やっています。それがムーブメントになったらうれしいなと思っています。

竹花 皆さん、去年の大会にビデオで参加したパッケンがコロナの時代に近く公園で近所の子どもたちと鬼ごっこをしたという話を覚えておられますか。あれは今どうなっているんですか。

パッケン 今は鬼ごっこしていません。でも本当に最初は皆家に閉じこもっていたころ、僕は毎日3時ぐらいに近くの公園に行って知らない子どもたちとも鬼ごっこをするようになった。それからどんどん子どもたちも親御さんも集まってきて、三密はできませんでしたが、鬼ごっこで軽くタッチするぐらいはできる。そのほんのちょっとしたスキンシップでコロナを結構楽しく乗り越えることができたと思っています。

マッケン スマホはすごく情報量が多い。たとえば昔は、朝登校して昨日のドラマの話などをするとみんなで盛り上がった。でもいまは韓流好きの子、スポーツが好きな子、ダンスが好きな子、アメリカのミュージカルが好きな子と、皆違うジャンルのことが好きで、しかもスマホ1台でその情報を個々に知ることができる。だから朝学校に行ったときに、「昨日の〇〇の試合すごかったね」と言ってもだれも見えていなかったり、そういうことが寂しい時代になってしまっている。

学校を自己決定する場所へ

竹花 工藤先生、今のお二人の話を聞いてどうですか。

工藤 パッケンマッケンの話はとても本質的なところだと思います。今の子どもたちはスマホがもう現実にあるから、あの時のゲーム機と同じように自分でコントロールしなければいけない時代です。でもあの時代より今の子どもたちのコントロールの仕方のほうが難しくなっているのは、スマホ全部がダメなのではなくて、スマホの中のある一部のアプリとかYouTubeは自分の好きな画面が1個わかるとアルゴリズム、勝手に自分が好きなものが次々と延々と出してくる。これは自己決定ができなくなる。私がさっきから言っているのは日本の子どもが自己決定ができないということです。

不登校が多い理由もそうです。なぜ不登校が日本にだけいて世界にはいないのか。それは世界の学校は自己決定ができる仕組みになっているからです。たとえばアメリカだったら50州全部でホームスクーリングが認められている。義務教育だけど就学義務はないの

で、学校に行かない子は家庭で勉強してもいい。行政は何をするかという、ちゃんと学力がついているかを調べるために標準テストを受けなさいという縛りがあったり、地域・コミュニティとつながりがあるかチェックがあったりします。それさえできていれば、途中から高校や大学に入れる。だから不登校になって真っ青になるという家庭はどこにもない。

むしろ欧米ではヤングケアラーとか福祉的なチェックをしたりします。ドイツは日本と同じように就学義務があって、学校に通わなければいけないのだけれど、子どもが選べる。日本や韓国はかたちが決まっていて、そのかたちから外れたらもうだめですという教育システムです。自己決定ができない。子どもが自己決定するのではなくて、君はここにいなさいみたいな仕組みをつくっているからいけない。さっきの遊びもそうですが、鬼ごっこがなぜいいかというと、鬼ごっこは遊びの中で常に自分の頭で考えて作戦を練って自己決定します。つまり日本の子どもたちは自己決定されない仕組みの中で生きているので、人と比べる相対評価しかできない。本屋に行くとき自己肯定感を高めるために、やたらにほめろという本がありますが、これは脳科学的に見てほめても自己肯定感は高まらない。

バックン けなせばいいんですか。(笑)

工藤 ほめ方が難しい。たとえばあなたは一番のハンサムですというほめ方をされるとうれしいかもしれないけれど、かけっこをして1等賞でほめられた子どもでは、もっとすぐれた子どもが集まった中では1等賞になれない。そうすると俺には能力がないと思う。つまり結果をほめられ続けた子どもは結果を求めるようになるので、能力がないから俺はやめたとなってしまう。でも1等賞という結果をほめないで、どんな工夫をしたのかとかプロセスをほめられ続けられた子どもは、うまくいかないときに工夫をしようとする。

バックン 結果ばかりじゃなくてプロセスに集中する。

工藤 だからほめ方はメチャメチャ難しい。でも唯一、自己肯定感が高まる子どもは100%自己決定しているのです。

バックン たとえば「工藤先生の話をもんなわかったから良かったね」ではなくて、「先生、よく頑張って説明しようとしていましたね」ということですね。(笑) そういう教育を実際されたわけですか。

工藤 欧米はどんな教育に向かっているかという、これに尽きるのですが、学校を子どもが自己決定する場所に変えようというの

が世界が考えている教育です。これをヨーロッパは 40～50 年前に転換し始めました。学校は、いろいろな行事とか決まりとかを含めた学校運営をどんどん子どもに委ねていく。そうすると学校が自分たちにとっての社会になる。そこで起きたトラブルを子ども自身が解決しようとする。そのときに多数決ではないよと教える。多数決は議論をブツツと切ってしまう。

つまり多数決はマイノリティ、少数派を切り捨てろという考え方で、ヨーロッパでよくやっているのは、子どもたちに委ねて話し合いをしてぶつかり合うと、可能な限り多数決を使うな、多数決を使うのは、A 案でも B 案でもどちらでもいいときだけ使っていというルールです。A 案だったら、あるいは B 案だったらだれの利害が絡むか、どちらも絡まない C 案を探せないかと。たとえば 10 対 90 であろうが、その 10 がなくなる方法は何かを徹底的に話し合う。そうすると全員が共通の目的を探し出すという対話を訓練することになる。こういった子どもたちが大人になっていくので、世の中に課題が生まれたり痛みを覚悟できる子どもが育つ。

日本はまず学校運営を子どもに委ねないで学校が全部ルールをガチガチに決めて従わせる。そうすると学校が荒れる。昔はそれでもまだ良かった。同じ教育をしていて、それに反発する子どもがいたということは、規制をした社会に反発しただけなので、そのサービスはおかしいという不満を述べていた子どもたちの姿です。今は不満を述べることも諦めた。

マクン 荒れているのがいいという意味ではなくて、昔の人はそれなりに自己主張はちゃんとしていたということですね。

工藤 そうです。つまり自己決定をする機会はちゃんとあった。

マクン その行動は間違っていたかもしれないけれどもということですね。

工藤 もう一つは簡単に言いますが、学校運営を子どもに委ねる、すなわち生徒会活動やいろいろなグループ活動をどんどん子どもに委ねると、そこでトラブルが起きるので子どもの対話力がどんどん上がっていく。もう一つ、学習活動を子どもたちの手に委ねるのはすごく難しく、日本の学習は総合的な学習の時間がせいぜい 1 割ぐらいの授業で主体的な学びのアクセルを踏んでいるのですが、相変わらず欧米と一番違うのは一斉授業型です。ひたすら授業を教え込んで、それをノートにとってという授業スタイルが変わってい

ない。欧米ではこれを 40～50 年前から変えた。この授業スタイルはもともと欧米の真似をしたのですが、真似をしたままになっているのが日本です。この授業をやると、さっき言ったみたいに先生の教え方が悪いから俺の成績が悪いんだと文句を言うのですが、子どもが主体で学び方を選んでいくと文句を言わない。

たとえば横浜創英や前の麴町中学では、僕がいたころ数学は教えない授業をしていました。周りから全部自由に選べる。教える授業をしていたときは先生の授業はおかしいと文句を言っていた子どもが学び合って自分から先生に教えてもらう子は先生に感謝するのです。つまり自分が学びたいものを学んで解決していくから。

バックン ちなみに成績も良くなるんですか。

工藤 良くなる。でも最初は自分で勉強できないからこれに慣れるまでに時間がかかります。横浜創英では、英語も学年を壊して、1A、2A、3A みたいに縦割りで同じ時間に授業を組んでいて、普通に先生が教科書を使って教えているクラスがあったり、ヒアリング、スピーキングを中心にして学ぶ部屋があったり、あとはいろいろなアプリや AI 教材や YouTube を見ながら勉強する子がいたり、自由に選べる。最初のうち自分で決められない子は、先生が教える教室に行って学びますが、次の日はこっちで学んでみようかなとかいろいろできる。そうすると先生が教える部屋のほうはるかに非効率だとみんなすぐわかってきて、だんだんいなくなる。

バックン 先生はガンガン楽になる。先生が休みただけじゃないですか。(笑)

工藤 いやいや、先生はあちこちに行ってフォローするんです。そうすると主体的に学んで、学び方を覚えていった子どもは、先生に教えてもらうよりも友だちと相談して先生に聞いたほうがいいじゃないかとわかってくる。

バックン ちなみに僕は日本語を先生から教わったことも、日本語教室に行ったことも 1 回もない。日本に来てから教科書を借りて勉強して、日本人と話していて知らない単語や表現が出てきたらメモるようにしていました。同じ時期に日本に来た人が、同じ日本語能力検定試験の 1 級を取るのに 4～5 年かかったのに、僕は 2 年で取りました。やっぱり自分のペースで勉強して、自分の知らないことを教えてもらうほうが絶対にいい。

工藤 結局飢えているからですね。与えられると飢えないんです。

与えられ続ける子は文句しか言わない。自分で自律的に学ぶようになった子は人の文句を言わなくて、自分がどうするかを常に繰り返して勉強するようになるから、実はこれを幼児教育から始めなければいけないのです。日本は幼児教育から手をかけまくるので、この教育を変えていくことが一つと、この教育を受けた子どもを途中から戻してあげるといふ、僕らはリハビリと呼んでいます、リハビリする作業とこの二つが要る。

パクン 一つ対照的な実態を見たのですが、僕は子どもを日本の学校に4年生まで入れ、それからインターナショナルスクールに行かせました。変わるタイミングで、日本とインターナショナルスクールの学園祭を見たのですが、日本の学園祭での発表は、入場の時のお行儀よさ、座ってほかの子の演奏を聞いている時のお行儀よさ、一言の私語もないし、皆きちんと前を見ているし、歌う時音程も外れないし、本当にすばらしいし、本当にうまい。ただ楽しそうに見えない。

子どもがインターナショナルスクールに入って2週間、何もわからないうちにウィンターコンサートに出されたのですが、歌詞も覚えていないし、曲も覚えていないけれど、彼も含めて皆楽しそうに歌っていました。登場する時も、見ている時も乱れっぱなしで、日本の教育者は絶対怒るぐらい行儀が悪い。でも笑顔です。何がすごいかというと、ダンスナンバーがあって一人ずつソロを踊るのですが、その場で自分で考えて踊る。

10年ぐらい前でしょうか、日本の中学校の授業にダンスが取り入れられたことがあると思いますが、これはクリエイティビティ、表現力を育てるものだという目的で導入されたのです。しかし、結局皆同じステップを踊るようになった。これはクリエイティビティではないし、自己表現ではない。集団生活をダンスで表しているだけではないかと思いました。是非創英の授業を試していただきたいのですが、まずその前にダンスを一人ずつでも踊れるような教育に変わってほしいと思います。

子育ての当事者として

竹花 いろいろなお話を伺って、私自身が反省していることは、私は75歳になりますが、仕事が1番で、2番、3番がなくて5

番ぐらいに家庭があった。それが当たり前だという時代を過ぎてきました。ですから子どもが問題を起こした時だけ出て行って、あとは任せておくというのがおやじのスタンスだったと思います。それは学校との関係で言えば、子どもを成長させるのは学校の仕事であって、親は子どもにご飯を食べさせて洗濯をすれば、それが一番だと思っていて、子どもたちを育てるということを学校に委ねてきた。

その委ねてきた学校でどういう教育が行われていたのか。僕はいい先生に巡り合うこともありましたが、学校にもいろいろあって、今の創英中学みたいな学校はたぶん今でもあまりないだろうと思います。その学校で教えられていたことがかなりの大きな原因となって、いまの自己肯定感のない子どもたちを世の中にたくさんつくり出したのではないかと思います。

学校関係者は、いや、そんなことはない、それは家庭の問題だとおっしゃるかもしれませんが、早い話が5・4・3・2・1の通信簿をつけられて、5の人は当たり前だと思い、1や2をつけられた子どもたちはどう思うか。傷口に塩をすりこまれたような思いを1年に3回する。そういうことを続けていく学校教育が大半の中で子どもたちは自己肯定感を失ってきたのではないかとと思います。

もちろんそればかりが責任だとは思わないけれども、私の反省は子どもたちを育てることを学校に委ねた大人がたくさんいたというところで、それを僕らは意識しなければいけない。今のこの時代に同じことをやってはいけない。学校は変わってきて良い学校になりつつあるかもしれない。それでも親は子育てを学校に委ねないという覚悟を決めることが今までの議論の中で一番大事な結論のように思いますが、山崎先生、どう思われますか。

山崎 私も現役の父親として聞きながらすごく考えるところがありました。竹花さんが子育てをされた時代と我々が今子育てをしている時代は相当に変わってきている部分がある。今家庭は2馬力でないとやっていけない。要するに父親も母親も働くのがデフォルトになっているので、私は研究所で管理職になっているので仕事にすごく集中できるといいと思う反面、でもそれをやり過ぎると家庭のほうがバランスが取れなくて不具合が出てくる。実はそのバランスをすごく取りながらやっている世代だと思いま

す。だからある意味、上の世代はうらやましいと思うところもある反面、我々はそのを変わっていかなくてはいけないという部分もあります。下の世代はそこがもっとクリアです。私も昭和生まれで昭和の血が流れているので、そこはすごくわかるというところがあります。

学校に委ねるかどうかというところですが、そこは私の反省もすごくあって、仕事で非常に忙しい、妻も忙しいとなると、やっぱり学校に行っている間は学校にお願いするという発想は、どうしても出てきます。PTAの話もありましたが、共働きでは物理的にほぼ不可能で、参画するのは相当意識が高くコミットしなくてはという気持ちがないと相当に無理がかかってくるという環境だと思います。コミットしてくださる方は非常にありがたいと思いますが、片やそれを求められるときついみたいなところも正直あるという感じですよ。

働き方改革と子育て環境

竹花 今の働き方改革の中で父親は家庭で過ごす時間を少し持てるように日本の社会はしていませんか。

山崎 僕の個人的な体験なので全体はどうかわかりませんが、我々より下の世代は働き方改革がかなり浸透ってきて、仕事と家庭をくっきり分けることが当たり前になりつつあるという感じがあります。だけど我々の上の世代はそうではないので、我々管理職にすごくプレッシャーがかかるという状況になってきているのではないかと思います。結局どこをどういうふうにしフトチェンジしていかなければいけないか、その時に誰がつじつまを合わせていかなければいけないかというところが、進んでいる企業もあればそうでない企業もあるので、そこが結構難しいところかなと個人的には思います。

パクン ワークライフバランスは、仕事とプライベートを切り離すという表現をされたのですが、もしかしたら切り離さないほうが本当のワークライフバランスが取れるかたちかなと思います。僕が育った頃のアメリカは子どもを職場に連れて来る親も結構いました。そういう日を決めて皆で子どもを連れて来て、パパやママが働く姿を見てもらおうということもありました。

僕は母子家庭で育ちましたが、放課後行くところがなかった。日本は児童館というすばらしいシステムがありますが、アメリカにはそれがなくて母親が迎えに来てくれて、遅くまで仕事があるからと職場に連れて行って、僕は職場で適当に人の引き出しを開けたりして時間を過ごしていました。(笑) そういう子どもが来ていい職場環境や子どもが熱を出した時には父親も母親も職場を抜けさせるような職場環境になっていた。そっちのほうの方がむしろワークライフバランスが守れるのではないかと思います。

竹花 いまのバックンのご意見を聞いて、マックンは日本の父親としてどう思いますか。

マックン いま在宅ワークも増えています。だから子育てをしながら家で会議に参加したりする。だから日本も変わってきていると思います。以前ここで発言した時に、お子さんと一緒にご飯を食べていますかと聞いたらみんな笑っていたのですが、僕の周りで「お父さんと一緒にご飯食べる？」と聞くと、「お父さんは飲みに行って夜はないかな」というお子さんが結構多かったです。コミュニケーションが取れていない。親は取れていると思っているけれど、実は子どもは父親とあまりコミュニケーションを取っていないとっていて、その差がすごく気になります。

バックン マックンはちゃんと家でご飯を食べたあと飲みに行く。

マックン いや、そんなことはない。僕も子どもとちゃんとコミュニケーションが取れていると思っているけれど、子どもからすると母親としゃべる時間のほうが長いと言われます。

好きなこと、好奇心

竹花 村内さん、父親の今の状況は少し変化しつつあるのか、どういう感想をお持ちですか。

村内 今までのお話を聞いて、僕の中の結論的な話になってしまうのですが、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

僕はおやじの会をやっていますが、ボランティアで子どもたちや学校とかかわっていてよくそんな時間があるね、何でそんなにおやじたちがいっぱいいるのとよく聞かれます。工藤先生がおっしゃっていたように、僕ら世代は主体性がなくて、きっちりとみんなと同

じことをやるのが優秀なんだという教育を受けてきましたが、でもおやじの会の人たちを見ていると自らボランティアで時間を割いてみんな楽しそうに活動しています。この違いは何かと言ったら、みんな主体的なのです。おやじたちがやらされているのではなくて、自らやりたいとやっています。だから皆一生懸命やる。

だから今までの話も聞いていて主体性がキーワードになるのだろうと思うのですが、PTAの話でも、PTAがなくなるとか、だれも責任を取りたくないから会長がいなくて副会長が3人いるPTAがあるとか、責任者がいない組織なんてよくつくったな、子どもたちにどう説明するんだと、それを聞いたときにびっくりして思いました。何かかわりたくない、責任を取りたくない、学校のせいにするという個人主義的な風潮が蔓延している。でもその中でも主体的に一生懸命やる人はいるんです。そういう人たちの意識を広めたいと思ってオール世田谷おやじの会という情報共有の会をやっています。

マクン 今の村内さんの話を聞いていてつながるところがあるのですが、実は僕、こども食堂のシェフをやっています。発起人は女性もいますがほとんどおじさんです。昨日も来月のメニューはどうしようかと居酒屋で飲みながらずっと遅くまで楽しそうに会議をしていました。おじさんたちが一生懸命楽しそうに活発に行動するところにはそれに興味を持った子どもたちが必然的に集まってくるんだなと感じました。

パックン 今の世の中は性別で断言しないほうが良いという風習になっていますが、いろいろなおやじがいる中で作業が好きな親父はいっぱいいます。みんなの趣味を聞くと、釣りとかキャンプとか、余計な作業ばかりすることです。魚屋に行けば1000円ぐらいで買える魚を2万円もお金も時間もかけて釣ってくる。ですから主体性を育てるとか、もっとこの輪を広げるには作業をさせることだと思います。

我々が毎年ここでトークショーをやっているのはいいことだと思います。でも何か作業をしよう、何かムーブメントを起こそうという体も脳も一緒に動かすアクションがあれば、皆取り掛かるんじゃないかなと思います。

マクン だれかを喜ばせようという感覚を持つことがすごく大事。これをすると、この人は喜んでくれるんだろうなということを考えながら行動すると、そのあとがすごく楽しくなる。

竹花 マックンがこども食堂のお手伝いをしていることを初めて知っただけけれど、いいことをしていますね、びっくりしました。

マックン 料理が大好きなんです。

竹花 そこから始まっているんですか。

マックン パックンが魚なんか安く買えるのに、わざわざ高い道具を買って釣り好きなんてねという話をやっているのが僕なんです。魚釣りが大好きで、釣った魚をさばくのが楽しくなって、今度はさばいた魚をふるまって、食べている人の姿を見るのが楽しくなって、それがどんどん延長して行って、今はもう毎月第2金曜日のこども食堂のシェフを手伝いに行くのが楽しくてしょうがないですね。

竹花 山崎先生、あなたの研究分野と関連する話だと思うのですが、人間は何か好きなものがあって、手を使い、頭を使い、そういうことで解放されるというか。

山崎 本当にそのとおりでちゃんとデータも出ています。先ほど紹介した70年間追いかけたイギリスのコホートでも、思春期に自分の好きなことを大事にできた人は、年をとったときの幸福度は高くなるのです。逆にお金をもうけなさいとかいい仕事につきなさいとか、外から求められたことを達成しようとしてくると、頑張る力が高い子は何とか合わせられるのでいいのですが、ハンデがあったりして頑張る力が弱い子は、幸福度がすごく下がってしまう。だから自分が好きなこととか好奇心を大事にして仕事につなげられる環境をつくっていくことはすごく大事だと思います。

主体性と自主性

竹花 子どもたちに伝えるべきすごく大事なことが一つ出てきたように思います。僕は教育のあり方をめぐっての工藤先生の話の中にも同じ思想が流れているようにも思うのですが、どうでしょうか。

工藤 好きなことには主体的じゃないですか。これは脳科学的に見ても好きなことをするときには三日坊主にならない。それはドーパミンという物質が出るんだそうです。ドーパミンは主体的でないとならない。一般的にはいやなことをやらされ続けるとストレスが増します。そうするとノルアドレナリンという物質がどんどん出てい

てパフォーマンスを下げる。そうすると脳は慣れたことしかできないから普通三日坊主になる。日本の子どもたちは三日坊主になるとやればできる、頑張ればできると教えられているから落ち込む。つまり俺はできない、根性がないとなってしまう。日本の子どもたちの自己肯定感が低いのは、やればできると教えられて、ひたすらがんばれ、がんばれで育てられているので、脳がもともと頑張れないようにできているのに頑張れないんだと落ち込む。それが海外の子どもと比べて一番違うところです。好きなことの時にはドーパミンが出るからストレスはコントロールされるのです。

ここでちょっと専門的に、言葉の使い方で絶対に学校の先生に使い分けてほしいのは、たぶん会場の皆さんも考えたことがないと思いますが、主体性と自主性、言葉は似ています。似ているけれどまったく違う言葉です。自主性という言葉は、いままでの日本が大事にしていた教育です。自主性とは自ら進んでやることです。だからそれは大人や先生、親がやってほしいことを想像して、忖度して進んでやることも自主性と言います。一方、主体性は、自分の頭で考えて判断して決定して行動することなので、大人や先生、親がやってほしいことを頭の中で考えたうえで、これはやらないほうがいと判断して、やらないことを決定して別のことをすることを主体性と言います。だから違うんです。

日本の子どもたちはずっと自主性を育てられている。忖度して、言うことを聞いて、きちんと行進するとか、だれかがしゃべったら落ち着いていようとか、社会とずれたことを無理やり強制してやられる。インターナショナルスクールに入れた子どもが伸び伸びしているというのを僕もたくさん見てきましたが、制約がないから当然子どものうちは大人と違って自分でコントロールできないのでうるさいし、ぐちゃぐちゃするし、でもその経験がすごく大事になっていて、だんだん自分たちで社会をつくるということをゆっくり覚えていく。日本では小学校1年生でもう立派です。おかしいんです。

小学校1年生で椅子に座ってられない子は普通にいるのに、文部科学省は小1プロブレムと名前をつけてしまったので、世界にはない日本独特の教育用語です。小学校1年で椅子に座ってられないのは世界では当たり前なことなので、そんなことは問題とは言わないのに、日本は問題と言ったために1年生の担任の先生が苦しむ、苦しむ。だから自分のクラスで立ち歩く子がいないようにめっちゃく

ちや厳しくやる。そうすると主体性を失います。つまり付度してじっと座っていることのほうが勉強することより大事なのです。

デンマークの話も聞いたのですが、男の子は小さいうちは自分でコントロールできない子が多いので、体をゆすったりします。そうすると落ち着く。だからそうしながら授業が受けられる。小学校3～4年生で横に転がっても授業を受けていても叱られない。でも日本ではしっかりすることのほうが目的になるので、主体性をどんどん削っていく。

中学生の親が、うちの子は勉強の仕方がわからない、質問もできない、無理やり言わないと勉強しないので放課後残してくださいと言う。これは日本独特の言葉です。生まれたときは全員主体的な生き物だから、たった10年でその主体性を削りまくっているわけだから、主体性を大事にするという教育を優先させないと人のせいにして文句ばかり言う子どもになってしまうということです。

山崎 工藤先生がおっしゃった自主性が付度と結びついているというのは、われわれの調査でも出ています。思春期の子は周りに迷惑をかけてなんぼ、要するに自分のやりたいことをガチャガチャやるのは当たり前なだけけれど、日本の子どもの価値観でトップに来るのは人に迷惑をかけてはいけないということです。それはやはり欧米と全然違う。

子どもへ伝えたいこと

竹花 石橋さん、6項目をつくってくれましたが、あれを皆さんに示しながら時間の関係で3分でお話してください。

石橋 さっき皆さんが論議をしていたところですが、「水木しげる名言集より」(★12)に「(5)しないでいられないことをし続けなさい」、「(8)『成功しなくても楽しめること』、それは『しないでいられないこと』とあります。いま企業にアートの世界を持ち込んでいるんです。水木さんはまさしく芸術家で、こういう観点でものを見る。私の6か条にはこういう観点は入っていない。いまの皆さんの論議を聞いていて、こういう観点も大事なのかと思いました。

私の6項目の観点(★13)ですが、自分の子どもの頃、同級生の間でもこの子大丈夫だろうかという子もいました。でもそれぞれに夢、目標を持っていて、それを箱と表現しますが、大きな箱、小さ

な箱、それぞれにずっと持ち続けてほしいなというのが、「1. 常に人生の目標を持つこと」です。隣の人を見て、大きな箱でうらやましいとか、小さな箱でつまらないやつだとかということは考えてほしくない。

「3. 目標の実現過程で、手段を目的としないこと」。工藤先生も書かれていましたが、人間はよく勘違いして、目標を聞かれると東大に行くこと、でも東大に行くことは手段です。将来何かをやりたいというときの手段であって、手段を目的にすることはやめてほしい。

「4. 自ら考え、自ら判断し、自ら行動すること」。ここでの論議でも出たように目標に向かって自分で考えて、自分で判断して、自分で行動する。それはなかなか難しいことだけれど、その観点を持っていかないと人間、おもしろくないと思ってこの言葉を書いています。

「5. 自分の言葉でコミュニケーションを行うこと」。人から借りた言葉ではなくて自分で考えた言葉で人とコミュニケーションを取ってほしい。

「6. 正義感を持ち続けること」。世の中にはたくさん悪い誘惑がありますが、人によって正義は違うかもしれませんが、しっかり自分で正義を考えてほしいということで6項目を書きました。

今の社会は失敗をなかなか許してくれません。「不適切にもほどがある」というドラマがあってもおもしろく見ましたが、昔はたくさん失敗して、その中から学んできたことが、会社も学校もそうだと思うのですが、今は、1回間違えると、この人はバツテンだと復活がない。1回失敗したら学ぶどころが、おしまいだということがあるのですが、最終的にはいろいろな失敗をしながら大きくなってもらいたいと思いますし、もう一つは、私は Facebook をやっていますが、横浜創英高校の校長先生が書かれていましたが、親があまりかま過ぎるのではないか、もっと自由にやらせて失敗してもいいし、ただ大きな失敗をさせてはいけないので親はしっかり見ないといけないと思います、小さな失敗はどんどん子どもにやらせてその中から、してはいけないことをしっかり学んでもらって自分の糧にほしいと考えています。

- (1) 自分の好きなことに専念するためなら、周囲の目や評判を気にして「世間のルール」に合わせようなどとしてはいけない。奇人変人になってもいい。いや、むしろ、奇人変人になるべきだ。
- (2) 成功や栄誉や勝ち負けを目的に、ことを行っはいけない。
- (3) 努力は人を裏切る。努力したって成功するなんて保証は何もない。むしろ失敗する可能性のほうがはるかに高い。
- (4) 好きの力を信じる。
- (5) しないでいられないことをし続けなさい。
- (6) 忘れ者になりなさい。
- (7) 世界の奇人変人には幸せそうなのが多いではないか。慌てず騒がず、ひたすら自分の道を進めばいい。それでこそ本当に幸せになれるというものだ。
- (8) 『成功しなくても楽しめること』それは、『しないではいられないこと』。
- (9) もちろん、若い頃は必死に努力することが必要。しかし、中年を過ぎたら怠けることを覚えるべき。努力に結果は、なかなか追いつくものではありません。続けるためには、怠けることも必要なんです。迷った時には立ち止まっていいんです。
- (10) 才能と収入は別、努力は人を裏切ると心得よ。
- (11) 打ち込めるものを真剣に探しても見つからない、という人は多いと思います。大切なのは好奇心。
- (12) 目に見えない世界を信じる。
- (13) 他人との比較ではない、あくまで自分の楽しさを追及すべし。
- (14) なにか好奇心がわき起こったら、そのことに熱中してみる。そうすれば、『しないではいられないこと』が見つかる。
- (15) 『じゃあ努力なんて無駄じゃないか！』とはならない。好きの力を信じ、しないではいられないことをし続けていけば、努力すら楽しい。努力そのものが喜びに満ちている。

★12 「水木しげる名言集より」

1. 常に人生の目標（夢・目的）を持つこと
人生の目標（夢・目的）を常に持ち続け、その実現に向けて、努力していく。
2. 目標（夢・目的）の実現過程で、人を羨ましがったり、妬んだりしないこと
他人に対して、羨ましがったり、嫉妬をしないように、自分の歩む道をしっかりと考え、自分の人生を楽しむ。
3. 目標（夢・目的）の実現過程で、手段を目的としないこと
例えば、人生の目標（夢・目的）〇〇に実現したい。そのために、〇〇大学で〇〇を学びたい。この場合、〇〇大学に進学することは、目標ではなく、人生の目標（夢・目的）〇〇を実現するための手段である。
4. 自ら考え、自ら判断し、自ら行動すること
あらゆる事柄に対して、自分の頭で考え、自分の意見を持つ。自分の目標（夢・目的）を実現するために、何が必要か、自ら考え、自ら判断し、自ら行動していく。
5. 自分の言葉でコミュニケーションを行うこと
自分の考えを自らの言葉で整理し、自らの言葉で、コミュニケーションを図る。
6. 正義感を持ち続けること
いい事、悪い事をしっかり判断して、自分の判断に責任を持つ。悪い事に対しては、悪いと意見する。

★13 石橋昌祐

竹花 ご意見もあろうかと思いますが、村内さんにも 10 項目をつくっていただいていますので、それも説明していただいたあとに議論をしたいと思います。

村内 ChatGPT (★14) に聞いてみました。質問を投げかけると数秒で一瞬にしてこれだけのものを挙げてくる。とにかくそのスピードがすごい。内容はもっともなものばかりですが、なんか面白くな

い。見ていただければわかると思います。

人はなぜ生きるのか、人はなぜ働くのか、人の幸せとは何なのかというの私を含めて皆さんの人生のテーマだと思うのですが、それに対して気づいたことを手帳に書き留めていて、それをまとめたものです。(★15)

子どもたちの世代には関東に大震災が来ると言われていますが、東日本のときの釜石の奇跡と言われている釜石小・中学校の生徒が訓練のときに言われていた3か条です。「其の一 周りに流されず自分で考えて行動せよ」、「其の二 想定を頭から信じるな」、「其の三 何事も最善を尽くせ」。ここではまったく死者を出さなかったようですが、それはこの三つを子どもたちが信じてやった結果です。

普段避難所に避難する訓練はしていて、そこにいったん避難をしたのですが、その後津波が来るのを見て、もっと高いところに逃げたそうです。避難訓練どおりにやっていたらだいぶ犠牲が出たはずなのに、この3か条を子どもたちが徹底してやったことによって、その状況に応じて違う行動を起こしたということなのです。そういう意味でこの三つはすごく大事だと思っていて、震災というだれもが想像できないような事態が発生したときに、何とか生き残ってほしいという思いを込めて、この三つを入れました。

「其の八 あなたの命はあなたの先祖が繋いできた貴重なものだ、先祖のためにも人生を謳歌せよ」は結構大きいと思っています。自分の人生って何なんだと考えたときに、自分の人生は自分の時間だけではなくて先祖からずっと繋いできた思いを繋いでいて、またこの10か条を今回考えたのもそうですが、次の世代に何が渡せるのか、自分たちが生きている実感で伝えるべきものは何かを考えて、自分の人生をいかに謳歌するのは、実は先祖のため、これから未来のためにも大事なのではないかとこのことを言いたくて、8番目に入れています。

最後に言いたいのが、「其の十 幸せとは自分の能力と努力を尽くし周りの人に喜ばれることである」。先ほどマクンも言ってくれていましたが、幸せとは何かと言ったときに、周りの人に喜ばれること、自分の努力と才能によって周りの人を喜ばせること、そうやって働いた結果、喜んでもらった対価がお金になって生活が成り立つというロジックだと思っていて、一番最初に来るのはこれなのではないか。組織の中でもそうですし、いろいろなサービスやもの

を提供することで周りの人を喜ばせる。それが結局仕事になり、自分の生活になる。この周りの人を喜ばせることを追求してほしいという思いを込めて 10 番目に入れました。

【参考】 ◆今はやりのChatGPTに聞いてみました。

質問

おやじ日本が次世代に伝えたい十か条

ChatGPT

おやじが日本の次世代に伝えたい十か条を考えることは、文化や価値観を大切に伝える素晴らしいアイデアです。以下は、そのためのアイデアの一例ですが、おやじが重要だと考える日本の伝統や価値観に基づいて、自分なりのかじを作成してみてください。

1. 尊敬と感謝の心を持つ
2. 伝統と文化を大切にせよ
3. 節度と礼儀正しさを守れ
4. 自然を尊重し、環境に気を配れ
5. 協力と助け合いの精神を大切にせよ
6. 誇りを持って仕事に励め
7. 変化に柔軟に対応せよ
8. 健康な生活習慣を心がけよ
9. 誠実なコミュニケーションを築け
10. 家族や地域社会との絆を深めよ

これらはあくまで一例であり、おやじが特有の視点や経験から得た知恵を反映させると良いでしょう。

★14 ChatGPT より

其の一 周りに流されず自分で考えて行動せよ

其の二 想定を頭から信じるな

其の三 何事も最善を尽くせ

其の四 苦難が大きければ解決した時の喜びも大きい 苦難を恐れるな

其の五 世の中に絶対正しい正論はない 相手の立場になって考えよ

其の六 徳は弧にあらす 必ず仲間が出来る 独りでも前に進め

其の七 世の中は嘘も方便だが 自分に嘘はつくな

其の八 あなたの命はあなたの先祖が繋いできた貴重なものだ 先祖のためにも人生を謳歌せよ

其の九 世の中で一番美しい姿は 一生懸命な様である

其の十 幸せとは自分の能力と努力を尽くし周りの人に喜ばれることである

★15 村内敦

竹花 あまり時間がないのですが、今の村内さんと石橋のご意見についてご感想があれば。PACKンもコミュニケーションの力をつけようとおっしゃっていますが。

PACKン お二人ともすばらしいと思います。特に僕は石橋さんの「5. 自分の言葉でコミュニケーションを行うこと」、この言葉を借りてみんなに言おうと思っています。ということは、結局自分の言葉じゃないけどね。(笑) こうやって人が考えたリストを説明してもらって、納得するもの、ないものがあると思うのですが、よければ皆さん、家に帰ったら自分で人生の10か条とか子育ての10か条とかおやじとは何かの10か条をつくってみてください。人にシェアする必要はないのですが、自分にとって優先順位の高いものはなんぞや、考えるきっかけとしていいと思います。

マックン 自分で考えてもいいし、これだけたくさんあるから自分の意見に当てはまるものに○をつけて、その中でさらに1~10を自分流のをつくるといい。どれが正解というのはないと思いますので、いろいろ見直すのもいいと思う。僕もいろいろ見せていただいて、結構自分に当てはまる部分がありましたので、これは参考になると思います。

子どもたちにしなければならないこと

竹花 山崎先生、子どもに対して何を伝えたいかということ踏まえて見ると、どんな感想をお持ちですか。

山崎 これは父親として大変ありがたいものでした。いろいろ見てみると、今日の話ともつながりますが、自分で考えて判断して行動する、その力を持ってもらうことはすごく重要だと思います。石橋さんの手段を目的にしないとありますが、我々はどうしてもやっていることが、これはいったい何のためにやっているのだろうと考えるのは相当気をつけないとできないことだと思います。実は何のためにやっているのかわからないことを結構やっているの、そこは子どもに伝えていきたいと思いました。やっぱり目標を持つために、ではこれは何のためにやっているんだろうということを常に考えてもらうことはとても大事ななともいました。

工藤 最後は子どもが自分で大事なものを一つでも二つでも、自分はこうやっていきたいなと思う子になってほしいと思います。や

っぱり自己決定できない子は人や環境のせいにする習慣がついてしまう。それは大人の言葉によってそうなっていくわけです。だから大人が子ども自身の問題だと思っていないことをわざわざ問題だと指摘したとたんに、これは問題なのだと思う。そしてこうやれとずっと命令形を受けているわけだから自分に対しても否定的になるし、問題なのかなと思いつける。そういう子どもは結局挑戦しなくなってくるので、何かリスクを負いそうな仕事には手を挙げなくなってしまう。そして自分にできることしかやらない。言われたことだったらやるけれど、言われたこと以外はやらない。つまりリスクを避ける子どもになってしまう。リスクを避ける子どもは、結局自分で自分をほめるチャンスを失って自己肯定感が低くなるという悪循環になる。親はついつい気になって、子どもに「それはだめ。こうやれよ」と言いたくなるんだけど、そうではなくて「それって君は問題だと思っているの」と、問題なのかどうか、もしかして問題そのものを問題だと思っていない子どもに「それは問題だ」と言ってあげることが重要なのか。もし自分自身で、「そうか、問題だと思っているのか、だったらどうしたらいい。君はどうしたいの」と聞けばいいと思うんです。さらに一人でできそうになかったら「何か手伝ってもらいたいことがあったら言って」と。

麴町のときも横浜創英のときも気をつけている三つのセリフがあって、教員にも、できれば親にも使ってほしいのが、「どうしたの」、「ああ、そうなんだ。じゃあ君はどうしたい」、「何か手伝うことはあるかい」です。困ったら、ちゃんと支えてくれる安心感が三つ目の言葉で、「何か手伝うことはあるかい」と、この繰り返しをやっていると1年ぐらいで元気になります。自己肯定感が低くて何もやる気がなくて、「どうしたい」と聞くと「別に」と言う。でもその子どもに何回も何回も繰り返していると、これができるようになる。

最後の三つ目の言葉のときに選択肢を与えてあげるといい。「何か手伝うことがあったら言って。たとえばこんなことができるし、こんなこともできるから何かあったら言って」と言うと、じゃあ、お母さんにこれを頼もうかと思うかもしれない。朝遅刻しそうで起こしてほしいとは思っているかもしれないけれど、起こしてと言わない子どもを起こしに行ってしまうはいけない。起こしてと言われたら起こしに行けば文句を言われなくても、言われなくても起こしに行くと文句を言われるのはとても不幸なことです。親は良かれ

とって言っているのにお互いの関係が悪くなる。だから大きなお世話をしないということだと思います。

竹花 時間があと 15 分になりました。今日言い足りなかったことを 1 分 30 秒ずつ話してみてください。

石橋 私は今年 65 歳ですから竹花さんが言われたようにサラリーマン時代はちょうどパクンマクンより下ぐらいの時から一生懸命仕事をしました。会社で偉くなりたかったから、そのために家庭は二の次、三の次でした。僕が現役のころは組合が残業パトロールをしていましたが、ある時から人事が早く帰れと回ってくるようになった。だから社会は間違いなく変わっていて、みんな早く帰っている。でもある一部の人は飲みに行っていると思います。でも家に帰って子どもと一緒に食事をするような環境ができていますので、ぜひ視点を変えて子どもと一緒に食事をして、学校のことなど話をしてほしいと思います。反省の弁も込めて申しました。

村内 工藤先生の資料の中にあった 18 歳のアンケートで、あなたは夢がありますか、社会を変えられると聞いていますかという質問に、18 歳の日本人は世界に比べて非常に低いという結果が出ていましたが、あれは 18 歳だけではなくて、ザ・日本人だと思うのです。僕らもみんなそうで、ここにいる方にも聞きたいのですが、夢はありますかと聞かれて、私の夢はこれですと言える人は何人いるでしょう。世界を変えられますかと聞かれて、変えられると聞いている人は何人いるでしょう。だからこういうことを僕らはずっと教育として受けてきて、そういうふうになっているんだけど、だけど今後の社会を考えた時に、子どもたちにはぜひ主体性を持ってほしいし、自主的に行動してほしいと、今日話を聞いて僕も思いましたが、皆さんもきっとそう思ったと思います。

では何をすべきかと言われた時に、まず親がすることです。自分たちが子どもたちに背中を見せることです。僕はそう思って、おやじの会もそうですが自主的に行動しようとお父さんたちは会社で連携していろいろ仕事をしているかもしれないけれど、子どもたちにはそれは見えない。だから地域のコミュニティ、おやじの会、PTA、町内会もそうですが、こういう地域の中でお父さんたちが連携して、自主的に活動する姿を子どもたちに一番見せなければいけない、僕たちがやらなければいけないことではないかと思っています。

山田 我々社会、地域に暮らしているものは、地域、学校、ある

いは家庭が共同できるような環境を整備することが急務ではないかと思っています。おやじの会は学校と共同して8年前に寺子屋を始めました。ただコロナ禍や働き方改革など大きな時代のうねりの中、学校はノータッチ、地域で運営するしかないというように時代は変わってきています。その時代、時代によって何が当たり前かは常に変わってくるので、まずはそこを受け入れた中で、今我々は何ができるかを考えていく必要があるのではないかと思っています。

豊かで恵まれたコミュニティがあってこそ子どもたちの健やかな成長や子どもの未来は自ずと開けていくのではないかと考えています。そういった社会、地域で子どもたちにはぜひ相手を思いやって、自分なりの正義感を持ってほしい。そして一番言いたいのは誠心誠意と一生懸命、この二つ言葉、10か条や名言集にはまったく及びませんが、私はこの誠心誠意と一生懸命、この二つ気持ちさえ心に刻んで日々生きていけば、必ず幸せ、明るい社会は開けると思っています。是非今の子どもたちにはこの二つの言葉を贈らせていただいて日々過ごしていくことを願っています。

山崎 私はいろいろお話を伺って、失敗しても許してくれないという環境をすごく変えていかなければいけないと思いました。好きなことをやるときに安心して試行錯誤をできる環境をつくっていくことがこれから非常に大事になってくると思いました。子どもは大人の社会の鏡だと思います。大人の社会が安心して試行錯誤をできなくなっているので、そこを変えないとたぶん子どもは変わらないと思ったので、まず自分からやってみようかなと思いました。

マックン 我々はだいぶ前からこの会に参加させていただいています。おやじと言うと、僕が子どもの頃はすごい威厳があるものという感じでしたが、今はどんどん時代が変わって、僕も家に帰ると威厳もないし、おやじではなくてパパと言われています。でも時代とともにおやじの接し方、家族の接し方、社会での接し方を変えていかなければいけないんだなと、毎回参加するたびに思います。おやじのスタイルもどんどん変わっていくと思いますので、今後も呼んでいただけるなら皆さんと一緒にこれからも勉強していきたいなと思いました。

パックン 世の中にはいろいろなおやじがいらっしゃるし、そのおやじのあり方もさまざまだと思います。僕は母子家庭で育って、6歳のころからおやじと一緒にいなかった。最初は2週間に1回、

その後は1カ月に1回、少し遠い州に引っ越して半年に1回とか年に1回ぐらいしか会えなかった時期がありました。それでもおやじは僕にとってすごく大事な存在でした。僕が役者に挑戦すると親に発表したときに、母はそんな不安な道をと反対しましたが、父は「やれよ。頑張れよ」と無責任なことを言っていました。父もずっと役者をやりたくて、今も87歳で映画をつくりたいと台本や脚本を書いて、いまだに夢を見続けている。その自分の夢を僕にかなえてほしいと。そんな父をカッコいいなと思います。

僕は子どもとべったりする親も好きで、どちらかと言うとそっちを目指しているのですが、でもできることをやるおやじになれると思うんです。夜遅くまで仕事がある、なかなか一緒にごはんが食べられない、それでもおやじでいる、それでいいんです。ずっと安心して相談できる、ずっと頑張ってる夢を見続けている姿を見せて感動させる、そういうおやじでもいいなと思います。

今日はコミュニケーションがテーマですが、日本ではおやじの背中をずっと見て育ったという表現がありますが、できるなら背中ではなくて顔を見せて、子どもとしっかりコミュニケーションを取りながらできることをやってほしいと思います。またぜひこの会に呼んでいただいて、皆さんと一緒に勉強させていただきたいと思います。ありがとうございました。

工藤 皆さんの話を聞きながら、やっぱり親や先生は「やってみれば」、「大丈夫よ」とそういう役割だなと思います。日本も人口がめっちゃくちゃ増えていた時代は、とりあえず親の言うことを聞いていて就職すれば、経済的には幸せになった時代でしたが、今はもうその時代が来ていないので、親が無責任にこうしたらと言ったら不幸になってしまいます。自分で決めなさいと切り離すよりは、自分で決めていいんだよと言える教育環境をつくらなければいけないなと思います。

残念ながら30年、まったく正反対の教育で、良かれと思って手をかけて、手をかけて、失敗しないで、トラブルにならないで、仲良くさせてとみんな必死になって、やわな環境をつくりまくってきたけれど、やっぱり日本全体で教育の目標は主体性と当事者性でしょうと、これをはっきりとみんなで合意する 때가来たのだと思います。

20年ぐらい前に僕がこの話をしてもだれも見向きもしませんで

した。でも今は日本中で講演していてみんなそうだそうだと言います。今あちこちで本物の教育改革が始まっています。子どもたちに任せよう、失敗させよう、多数決を使わないで決定させようと、めちゃくちゃ面倒くさいことをどの学校でも始めています。学びの仕方も子どもたちに選ばせようと言っています。そういう展開がこの10年ぐらいで一気に起こると思います。おそらく本当にチャンスがやってきて、10年以内ぐらいで日本の学校教育が大きく転換すると僕は感じています。是非皆さんでその応援をしていただけるとありがたいと思います。

むすびに

竹花 皆さん、ありがとうございます。私はまた今日も勉強させていただきました。総括というより私が感じたことを二つ申し上げたいと思います。

私たち大人は、親としても大人としても子育てを誰かに委ねないという姿勢がすごく大事ではないか。学校に任せていいのか、女房に任せていいのか、そのことをしっかり頭に置いて考えていかなければいけない。これは今日の主要なテーマになった主体性という問題が大人にも問われているのだらうと思います。

今日学校教育の問題について詳しくお話を伺いましたが、学校教育がそのように大きく変わっていくことを期待しますが、それは待っていては大人としての責任を果たしたことになるだらう。その意味で一つ目のだれかに委ねないという話は自分でも何かをやる。パッケンの鬼ごっこ、マッケンのこども食堂、おやじ日本のメンバーの方の地域での取り組みなどもあろうかと思っています。そういうことが子どもたちに大きな影響を与えていく。自分も何かをやることで子どもたちにも大人としての姿を見せていくことが大事だらう。そういう意味で一つ目は誰かに任せない、委ねないということを大きく学びました。

二つ目は、大きな問題で私も整理しきれないのですが、今日どなたかが寛容な社会をつくろうとおっしゃいました。実はこの会が始まる前に山崎先生とも議論をしていたのですが、今大人も子どもも生きにくい時代になっています。何がそうさせているのか。自分が生き生きとして生きる環境を見出すのが難しい時代だと思っています。

そこを思うと、私たちが考えなければいけないのは、人類は生物として社会を活発なものとして作り上げていくためには皆それぞれがそのための寛容さと、自分のことばかり考えていないで世の中全体をよくしていくという観点でふるまうことがすごく大きな歩みとなるのではないかと感じました。

これは実は主体性とか当事者性にも通ずる話だと思います。僕は役人だったから治安のことは警察に任せなさい、社会福祉のことは役所に任せなさいと言ってきて今がある。今社会課題はたくさん残っています。これは僕たちは役所にいろいろなことを委ねてきた結果だと思うのです。そういう時代はもう終わっている。役所に文句を言っても、ない袖は振れないのです。政治家も同じです。政治家が何かをしてくれることを期待していたのでは今の社会課題は解決しないだろう。やはり人類が生き延びていくためには、一人ひとりが生き生きと生活することが大事で、その生き生きとする人が生きることができる社会を実現するためには、私たちが役所や誰かに任せないで、自分たちで少しでも何かをやっていくことが、そういう道につながるのではなかろうかということも、今日のディスカッションの中で感じました。

パネラーの皆さん、今日は長時間にわたってありがとうございます。会場の皆さんも熱心にお聞きいただきました。お礼を申し上げます。おやじ日本は 20 年経って、実はこの大会もこれで終わりにしようかという思いもあるのですが、今日のように皆さん方が一生懸命に聞いてくださる以上は、また来年も新たなテーマを勉強し直して、皆さん方にお聞きいただければという思いです。今日は本当にありがとうございました。

(2024 年 6 月 15 日)

おやじ日本のあゆみ

(概略。詳細については当法人紹介パンフレットに記載しております。)

- 2004年 ・おやじ日本設立宣言
平成16年 ・「総監督」に星野仙一氏と野村萬斎氏が就任
・おやじ日本全国大会及びおやじ東京全都大会 6月27日(日)
基調講演「おやじ、頑張ろう！」 講師：星野仙一氏
パネルディスカッション「おやじ、知ってくれ！」
- 2005年 ・おやじ日本全国大会及びおやじ東京全都大会 6月26日(日)
平成17年 基調講演「気づかせて育てる子どもの力」講師：山口良治氏
パネルディスカッション「子どもが安心して、いきいきと育つ地域とは」
- 2006年 ・おやじ日本規約制定
平成18年 ・83運動推進開始 協力：(株)電通CSR室社会貢献部
・おやじ日本全国大会及びおやじ神奈川設立大会 6月11日(日)
全員参加型パネルディスカッション
「子どもと地域の為に、おやじ汗をかこう」
パネルディスカッション 「おやじ！知ってくれ」
～携帯電話に翻弄されない子どもを育てよう～
・豊橋おやじネットワーク発足
- 2007年 ・携帯フォーラム・イン千葉 3月4日(日)
平成19年 「おやじ！知ってくれ～子どもと携帯～」
・おやじ日本全国大会及び千葉おやじネットワーク設立大会
6月3日(日)「～広げよう、千葉おやじの輪～」
- 2008年 ・おやじ日本発「iS運動」推進開始
平成20年 「おやじ宣言～立ち上がれ！おやじ」発信
・おやじ日本全国大会及び埼玉おやじネットワーク設立大会
6月1日(日)「～広げよう、埼玉おやじの輪～」
第1部 「立ち上がれ！おやじ～子どもを守るおやじの輪～」
第2部 パネルディスカッション 「ケータイの今～ケータイは危険？あなたはどうか考える～」
- 2009年 ・特定非営利活動法人おやじ日本設立 (2月9日法人登記完了)
平成21年 ・特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会 6月7日(日)
「世界のおやじ、日本のおやじ。～語ろうじゃないか、子どもへの思い～」 於：渋谷CCLemonホール

- ・おやじ日本山形発足 4月11日(土)
- 2010年 平成22年
 - ・おやじ日本しまなみ設立準備会 1月16日(土)
 - ・第7回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会 6月20日(日)
「おやじたちの争点—公教育のあり方をめぐって(学校五日制、塾、部活etc。)—」
 - ・おやじ日本広島設立記念大会 7月14日(日)
 - ・第8回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会山形大会
11月6日(土) 第一部:講演「育てたように子は育つ」
パネルディスカッション「未来を開く子供たちをどう育てるか」
 - ・第33回渋谷区くみんの広場参加
- 2011年 平成23年
 - ・第9回特定非営利活動法人おやじ日本全国大会 6月5日(日)
「学校は社会の変化に対応できているか。そして親は…-おやじ日本の問題提起-」
 - ・「未来教室」(学校と企業との連携支援)実施開始 実施校11校
 - ・第2回おやじ日本広島大会
- 2012年 平成24年
 - ・第4回愛知おやじサミット in 大口 1月28日(土)
「おやじの子育て—子どもも育つ、おやじも育つ、地域も育つ人づくり—」
 - ・国税庁長官より認定特定非営利活動法人に認定される。
(認定日6月4日)
 - ・第10回認定特定非営利活動法人全国大会 6月24日(日)
「未来教室」へのお誘い~キャリア教育を広げるために~
 - ・「未来教室」(学校と企業との連携支援)実施校21校
 - ・第3回おやじ日本広島大会 11月25日(日)
- 2013年 平成25年
 - ・第4回おやじ日本広島大会 4月13日(土)
於:三滝グリーンチャペル 東日本大震災復興チャリティーコンサート「千の音色でつなぐ絆」
 - ・創立10周年記念全国大会 6月30日(日)
「広がれ!おやじの輪~語ろう子どもたちと~」
ヴァイオリン(東日本大震災復興支援~ヴァイオリン・プロジェクト「千の音色でつなぐ絆」~津波で流した陸前高田のマツや建材から作られたヴァイオリン)演奏
総司会 早川信夫氏(NHK解説委員)
第1部 「広がれ!おやじの輪~おやじの汗に乾杯!~」

- ・おやじ日本広島 「子どもたちに感動を」 ・豊橋おやじネットワーク「地域へもっと足を運ぼう」
- ・大子自然塾 「自然体験を子どもたちに」 ・おやじ日本山形「学校へ出かけよう」
- ・おやじ日本「未来教室～学校に社会の風を吹き込もう～」
第2部 「これから ～日本の子どもたち～」
基調講演 ダニエル・カール氏（タレント）
パネルディスカッション ダニエル・カール氏 他
- ・第2回おやじ日本山形大会「未来ある子どもたちのために」
11月30日（土）
- ・「未来教室」（学校と企業との連携支援） 実施校 35校

2014年
平成26年

- ・第6回おやじ日本広島大会 4月6日（日）
- ・東京都公立小学校長会意見交換会 5月13日（火）
- ・東京都公立中学校長会意見交換会 5月27日（火）
- ・第12回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月29日（日） 「災害国日本の親、おやじに問われていること」～助けられる人から助ける人へ～
基調講演/パネルディスカッション「災害国日本の親、おやじに問われていること」～助けられる人から助ける人へ～
コーディネーター 早川信夫氏（NHK 解説委員）
- ・世田谷区立等々力小学校おやじの会創立20周年祝賀会
7月20日（日） 於：世田谷区立等々力小学校
- ・千葉県市原市青少年育成ちはら台地区民体験講演会
9月20日（土） 於：ちはら台コミュニティセンター
- ・「未来教室」 実施校 53校
- ・「防災教室」11月12日（水）於：渋谷区立原宿外苑中学校

2015年
平成27年

- ・第13回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月27日（日）「スマホと子どもたち～スマホどうする、おやじ！考えようじゃないか～」
基調講演 「スマホ時代の大人が知っておきたいこと」
講師 竹内和雄氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授）
基調講演 「今子どもの心に何がおきているのか」
講師 小野和哉氏（東京慈恵会医科大学准教授）
パネルディスカッション
コーディネーター早川信夫氏（NHK 解説委員）
パネリスト ダニエル・カール氏（タレント）他

- ・第7回おやじ日本広島大会 フットサル大会 10月25日(日)
 - ・「未来教室」 実施校48校
 - ・i S運動推進「スマホ安心・安全教室」
 - ・防災教室推進
- 2016年
平成28年
- ・埼玉おやじネットワーク講演会 「スマートフォンが与える青少年への影響と対策」 2月21日(日)
主催：上尾市青少年育成連合会 原市地区会議
 - ・第14回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月26日(日)「パラスポーツの未来～結構深いぞ 障がい者スポーツ！～」
基調講演 「知っていますか？ パラスポーツ」
講師：仲前信治氏(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 強化部強化支援課課長代理)
デモンストレーション「ウィルチェアラグビーはおもしろい！」
デモンストレータ 小川仁士氏(「BLITZ」埼玉所属)
パネルディスカッション「結構深いぞ 障がい者スポーツ」
コーディネーター 竹花 豊(おやじ日本理事長)
パネリスト 田口亜希氏(パラリンピアン・射撃)
小川仁士氏(「BLITZ」埼玉所属)
長谷部健氏(渋谷区長) 内田賀文氏(パナソニック株式会社
パラリンピック統括部長) 他
 - ・豊橋おやじネットワーク おやじフォーラム2016
11月22日(火) 竹花豊理事長講演会
11月23日(祝) 栄おやじの会西居院慰問 廣中顧問見舞兼
 - ・「未来教室」 実施校49校
- 2017年
平成29年
- ・「未来教室」 実施校59校
 - ・第15回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月25日(日)「パラスポーツの未来Ⅱ～パラスポーツから元気をもらおう！～」
基調講演 「冬季パラリンピックがやってくる」
講師：大日方邦子氏(日本パラリンピアンズ協会副会長)
デモンストレーション 「やってみよう ボッチャ」
協力 日本ボッチャ協会 都立光明学園生徒
パネルディスカッション 「パラリンピアン大いに語る！」
コーディネーター 早川信夫氏(NHK 解説委員)

パネリスト 上原大祐氏 (NPO 法人 D-ShiPS32 代表)
大日方邦子氏 (日本パラリンピアンズ協会副会長)
ダニエル・カール氏 (タレント)
長谷部健氏 (渋谷区長)
マクドナルド山本恵理氏 (日本財団パラリンピックサポート
センタープロジェクトリーダー・パワーリフティング選手)

- ・第3回おやじ日本山形大会 (第16回全国大会) 「これからの時代を生き抜く子どもたちのために」 11月18日 (土)

2018年
平成30年

- ・第17回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月24日 (日) パネルディスカッション 「18歳はもう大人!？」
総合司会 宮本 隆治氏 (アナウンサー)
インタビュー 「日本の内と外を語る」
バックンマックン (タレント)
小山 裕介氏 (コントロール・リスクス・グループ (株) 日本
総代表兼シニア・パートナー)
マクドナルド山本恵理氏 (日本財団パラリンピックサポート
センタープロジェクトリーダー・パワーリフティング選手)
「私たちはこう思う!」 東京都立日比谷高校生 東京芸術
大学音楽部附属音楽高等学校生 慶応義塾大学生
「大人たちにも言わせてほしい!」
長谷部健氏 (渋谷区長) 武内彰氏 (東京都立日比谷高校
校長) 長坂敏文 (おやじ日本監事 十文字学園女子大学名誉
教授) 他
- ・「未来教室」 実施校 59校

2019年
令和元年

- ・認定NPO法人おやじ日本設立15周年記念大会 (第18回全国
大会) 「さてどうする? 令和のおやじ ~社会の変化とこれ
からのおやじ~」 6月23日 (日)
パネルディスカッション 「さてどうする? 令和のおやじ
~社会の変化とこれからのおやじ~」
司会 三宅 民夫氏 (元NHKエグゼクティブアナウンサー)
メインスピーカー バックンマックン (タレント)
長谷部 健氏 (渋谷区長)
長谷川 真理子氏 (総合研究大学院大学学長)
竹花 豊 (おやじ日本理事長 元東京都副知事)
登壇者 エドバーグ・ヤコブ氏 (実業家 スウェーデン)

ノラ・コットマン氏（家族人類学者 ドイツ）
きらら弦楽合奏団メンバー オール世田谷おやじの会 横
浜市立川和東小おやじの会 掃除に学ぶ会 張晶子氏
スコール家庭教育振興協会会員
杉並区立小学校 PTA 野球連合協議会会員

・「未来教室」 実施校 58 校

2020年
令和2年

・第19回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会延期
（コロナ感染拡大の影響の為）オン/オフライン勉強会実施
・「未来教室」 実施校 10 校

2021年
令和3年

・第19回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月27日（日）「AIは人間を幸せにするのか？ 子どもたち
と考える」
基調講演「AIの“今”と“これから”」
講師：西垣通氏（東京大学名誉教授）
パネルディスカッション コーディネーター
三宅民夫氏（元NHKエグゼクティブアナウンサー）
パネリスト 西垣通氏（東京大学名誉教授）
長谷川真理子氏（総合研究院大学院大学長）
工藤勇一氏（横浜創英中学・高等学校）
パッケンマッケン（タレント）
長谷部健氏（渋谷区長）大学生
・「未来教室」 実施校 30 校

2022年
令和4年

・第20回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月26日（日）「子どもに対する大人の責任を果たすため
に～自信を持った子どもを育てよう」
基調講演「子どもに対する大人の責任を果たすために
～自信を持った子どもを育てよう～」
講師：工藤勇一氏（横浜創英中学・高等学校）
パネルディスカッション
パネリスト 長谷川真理子氏（総合研究大学院大学学長）、
工藤勇一氏（横浜創英中学・高等学校長）
布村幸彦（おやじ日本理事・元文部科学省初等中等教育局長）
村内敦（おやじ日本理事・オール世田谷おやじの会会長）
コーディネーター
竹花豊（おやじ日本理事長・元東京都副知事）
・「未来教室」 実施校 37 校

- 2023年
令和5年
- ・第21回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
6月25日(日)「コロナ禍と子どもたち～どうする?おやじ、大人!～」
パネルディスカッション
「オープニングインタビュー(ビデオ出演)
パッケンマッケン(タレント)
コーディネーター
竹花豊(おやじ日本理事長・元東京都副知事)
パネリスト
山口有紗氏(医師 子どもの虐待防止センター)、
大字弘一郎氏(全国連合小学校長会会長)
宇都宮啓(市原市青少年育成ちはら台地区区民会議会長)
村内敦(オール世田谷おやじの会会長)
石橋昌祐(杉並区立小学校PTA野球連合協議会会長
佐々木淳氏(前杉並区立和田小学校おやじの会会長)
羅悠飛さん(高1) 中山梨華さん(高2)
石野絢香さん(高2) 垣内ひな子さん(中2)
長谷川優貴さん(中3) 中澤悠依子さん(中3)
 - ・「未来教室」 実施校39校
- 2024年
令和6年
- ・第22回認定特定非営利活動法人おやじ日本全国大会
(設立20周年記念大会)
6月15日(土)「子どもたちに対する大人の責任～父の日に
考えてみよう～」
基調講演「未来に通じる教育へ」
講師: 工藤勇一氏(横浜創英中学・高等学校前校長)
パネルディスカッション
コーディネーター
竹花豊(おやじ日本理事長・元東京都副知事)
パネリスト
工藤勇一氏(横浜創英中学・高等学校前校長)
パッケンマッケン(タレント)
山崎修道氏(東京都医学総合研究所 副参事研究員)
山田正也氏(上尾市原市おやじの会会長)
村内敦(オール世田谷おやじの会会長)
石橋昌祐(杉並区立小学校PTA野球連合協議会会長)
 - ・「未来教室」 実施校3校 (7月現在)

【発行】 認定特定非営利活動法人おやじ日本

住所 〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂1-2-3 渋谷フクラス17階

電話 050-2017-3231

ホームページ：<http://oyaji-nippon.org/>

E-mail：desk@oyaji-nippon.org

編集 京須和恵 小山洋子

編集協力 小川祐一郎（株）シップ

本誌記載の内容は全て無断転載を禁じます。